

Ⅱ 北海道博物館の活動

1 調査研究

当館では、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするため、専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、5つの研究プロジェクトを行っています。その成果は館の各種刊行物、展示、教育普及などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)

(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト

道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトです(平成29年4月現在、5課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
野幌森林公園の生物インベントリー調査	27～30年度(4年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表溪太 堀繁久
北海道における漂着鯨類についての基礎的情報の集積と活用	27～29年度(3年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表溪太、圓谷昂史 堀繁久
地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用	27～30年度(4年間)	歴史研究グループ	山田伸一、◎三浦泰之、東俊佑、春木晶子、寺林伸明
戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	27～31年度(5年間)	学芸部長 生活文化研究グループ	舟山直治 池田貴夫、山際秀紀、◎会田理人、青柳かつら 尾曲香織
北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査	27～29年度(3年間)	博物館研究グループ	◎堀繁久、杉山智昭、櫻井万里子、栗原憲一 小林孝二、村上孝一

※「◎」は代表者

(2) 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト

道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにするなど、より深く探求するための総合的な調査研究を行うプロジェクトです(平成29年4月現在、3課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元	27～31年度(5年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	添田雄二、◎圓谷昂史 栗原憲一
北方四島の考古学的研究	27～30年度(4年間)	歴史研究グループ	◎右代啓視、鈴木琢也
北海道におけるツルの自然史と文化史	27～30年度(4年間)	自然研究グループ 歴史研究グループ	水島未記、表溪太 ◎山田伸一

※「◎」は代表者

(3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト

「北東アジアのなかの北海道」という視野で、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を、研究グループを横断して総合的に行うプロジェクトです。(平成29年4月現在、2課題)。

研究課題	提携先	期間	研究グループ	
北海道とサハリン 共通性と特性	ロシア・サハリン州	27～31年度(5年間)	自然研究グループ	表溪太、圓谷昂史
	サハリン州郷土博物館		歴史研究グループ	山田伸一、三浦泰之、東俊佑
			生活文化研究グループ	山際秀紀、会田理人
			博物館研究グループ	堀繁久、栗原憲一
			アイヌ民族文化研究センター	◎小川正人、大谷洋一、遠藤志保、大坂拓
寒冷地における自然と順応—博物館交流による亜北極地域の学際的研究—(北方文化共同研究事業)	カナダ・アルバータ州	27～29年度(3年間)	自然研究グループ	表溪太、圓谷昂史
	ロイヤル・アルバータ博物館		生活文化研究グループ	◎池田貴夫、青柳かつら、尾曲香織
			博物館研究グループ	栗原憲一
			アイヌ文化研究グループ	甲地利恵、田村雅史

※「◎」は代表者

(4) アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト

アイヌ文化に関する基礎的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです(平成29年4月現在、4課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリー及び伝承状況に関する調査研究	22～28年度(7年間)	アイヌ民族文化研究センター	甲地利恵
アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究	29～34年度(6年間)	アイヌ民族文化研究センター	甲地利恵
アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究	24～31年度(8年間)	アイヌ民族文化研究センター	大谷洋一
北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査	26～29年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター	田村雅史
道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部	28～31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター	大坂拓

(5) アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト

アイヌ文化に関する専門的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです(平成29年4月現在、4課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究	28～31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター	小川正人、大坂拓
教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代	28～31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター	小川正人
アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究	28～31年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター	大谷洋一、遠藤志保
アイヌ文化資料の内容分析(寄贈資料等)	26～31年度(6年間)	アイヌ民族文化研究センター	アイヌ民族文化研究センター全員

公開研究会

当館の研究プロジェクトにかかる成果報告や共同調査などの場として、さまざまな形で公開研究会を開催しています。

科研費ほか外部資金

※新規課題は採択時のもの

1. 平成28～29年度の科学研究費補助金による調査研究(当館職員が研究代表者になっている課題)

学芸部長

継続	基盤研究(C)一般	平成25～29年度	西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民俗学的研究	舟山直治
----	-----------	-----------	---	------

自然研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	平成26～28年度	シュミット線とサハリン先住民の植物資源:環境の多様性から見た文化の地域的多様性	水島未記
継続	基盤研究(B)一般	平成27～30年度	小氷河期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響	添田雄二
継続	若手研究(B)	平成26～28年度	海岸漂着物を用いた環境教育と博物館でのアウトリーチ活動	圓谷昂史

歴史研究グループ

新規	基盤研究(C)一般	平成 28～31 年度	近代の北海道と周辺地域における生物の人為的移入に関する研究	山田伸一
継続	基盤研究(C)一般	平成 25～28 年度	北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書に関する基礎的研究	三浦泰之
継続	基盤研究(C)一般	平成 25～28 年度	古代日本列島北部地域における文化集団の移動に関する基礎研究	鈴木琢也
新規	基盤研究(C)一般	平成 28～32 年度	蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究	東俊佑
継続	若手研究(B)	平成 27～29 年度	「アイヌ絵」の成立展開についての基礎的研究	春木晶子

生活文化研究グループ

新規	基盤研究(C)一般	平成 28～32 年度	北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究	会田理人
新規	基盤研究(C)一般	平成 29～33 年度	北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究	池田貴夫
継続	基盤研究(C)一般	平成 27～29 年度	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発	青柳かづら

博物館研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	平成 26～28 年度	アイヌ民族資料の X 線 CT による現況調査及び長期保存方針の策定に関する基礎的研究	杉山智昭
新規	基盤研究(C)一般	平成 29～31 年度	X 線 CT を核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	杉山智昭
継続	基盤研究(C)一般	平成 24～28 年度	北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究	小林孝二

アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

新規	基盤研究(C)一般	平成 28～30 年度	近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置:その歴史的意味に関する基礎研究	小川正人
継続	スタート支援	平成 27～28 年度	北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究	甲地利恵
継続	スタート支援	平成 27～28 年度	アイヌ英雄叙事詩における伝承の流動性に関する研究	遠藤志保
新規	基盤研究(B) 海外学術調査	平成 28～31 年度	資料返還をめぐる先住民と博物館との新たな関係性の構築に関する文化人類学的研究	出利葉浩司

2. 平成 28～29 年度の科学研究費補助金による研究課題への研究分担者としての参加 (3 課題)

自然研究グループ

継続	基盤研究(C)	平成 26～29 年度	サハリン・アムール地域の言語地図(研究代表者:札幌学院大学 白石英才)	水島未記
----	---------	-------------	-------------------------------------	------

歴史研究グループ

新規	基盤研究(B)	平成 29～32 年度	好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究(研究代表者:國學院大学 内川隆志)	三浦泰之
----	---------	-------------	---	------

博物館研究グループ

新規	基盤研究(B)	平成 28～31 年度	寒冷地域における遺跡や石造文化財の保存・修復に関する研究 (研究代表者:東北芸術工科大学 石崎武志)	杉山智昭
----	---------	-------------	---	------

3. 平成 28～29 年度の科学研究費補助金以外の共同研究への参加 (3 課題)

生活文化研究グループ

継続	日本学術振興会「課題設定による先導的 人文学・社会科学的研究推進事業」実社会 対応プログラム(公募型研究テーマ)	平成 27～30 年度	日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究 (研究代表者:星城大学リハビリテーション学部 齋藤貴之)	会田理人
----	--	-------------	---	------

アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

新規	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト	平成 28～29 年度	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用 基盤構築	小川正人
新規	2017 年度人文科学、社会科学に関する 学際的グループ研究助成(公益財団法人 サントリー文化財団助成金)	平成 29～30 年度	北海道日本海岸沿岸のアイヌ民族が経験した 19 世紀 (研究代表者:小川正人)	小川正人 遠藤志保 大坂拓

研究成果の発信と公開

学芸・研究職員の個別研究課題、分野別研究、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っています。

(1) 館出版物への執筆

平成 28 年度の館出版物への執筆(17 件) (当館職員は下線)

『北海道博物館研究紀要』第 2 号

種 別	著 者 名	タイトル	ページ
研究ノート	<u>水島未記</u> ・白石英才・丹菊逸治	サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用	1～14
研究ノート	<u>東俊佑</u>	安永 7 年の蝦夷地奉行定書について	15～24
研究ノート	<u>青柳かつら</u>	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発 (II) — 独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題 —	25～38
研究ノート	<u>堀繁久</u> ・栗林一寿	北海道におけるシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの分布について	39～48
調査報告	<u>添田雄二</u> ほか	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 II	49～60
調査報告	山崎真実・上村純平・ <u>水島未記</u> ほか	野幌森林公園のため池および水生植物相—2000 年～2004 年と 2016 年の調査から—	61～82
調査報告	<u>右代啓視</u> ・鈴木琢也ほか	千島列島における人類活動史の考古学総合研究 (II) — 特に北方四島の先史文化研究を中心に —	83～110
調査報告	<u>舟山直治</u> ・ <u>村上孝一</u> ・ <u>尾曲香織</u>	兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承	111～120
博物館活動報告	<u>栗原憲一</u> ・ <u>田村雅史</u>	2016 年度博物館実習において実施した来場者調査について	121～132
調査報告	<u>山田伸一</u>	開拓使によるキジ、ウナギ、ドジョウ、アユの移入について	133～138 (13)～(18)
研究ノート	<u>山田伸一</u>	下北半島風間浦村、大石神社の「蝦夷地・場所図」はどこを描いたものか	139～150 (1)～(12)

(※ () 内の数字は縦書きページのページ数)

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 2 号

種 別	著 者 名	タイトル	ページ
論 文	<u>大坂拓</u>	アイヌ民族の刀帯—分類群の共時的分布と通時的変化—	1～32
論 文	<u>奥田統己</u>	神謡と叙情歌の韻律的志向性—沙流地方の語り手の録音から	33～40
研究ノート	<u>甲地利恵</u>	アイヌ音楽における奇数拍節及び「音頭一同」形式との関係について	41～52
調査報告	<u>大谷洋一</u>	アイヌ口承文芸「散文説話」—山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語—	53～66
調査報告	<u>小川正人</u> ・ <u>遠藤志保</u> ・ <u>大坂拓</u>	鍋沢元蔵書誌	67～98
資料紹介	<u>大坂拓</u>	千島アイヌ製作のハマニシク製容器—平成 28 年度新収蔵資料の紹介—	99～102
資料紹介	田村将人 (依頼執筆)	樺太アイヌ村落の生活および教育に関する視察復命書	104～134 (21)～(51)
論 文	佐々木利和・谷本晃久 (依頼執筆)	『夷曾列像』の再検討に向けて—シモチ像と「観覧」と—	135～154 (1)～(20)

(※ () 内の数字は縦書きページのページ数)

特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行

図録	北海道博物館第 2 回特別展 ジオパークへ行こう！—恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探る旅— 展示・ジオパークまるわかりガイドブック
企画テーマ展	第 5 回企画テーマ展 「アイヌ民族資料を守り伝える力」
パンフレット	第 6 回企画テーマ展 「きれい？不思議？楽しい！？漂着物」
	第 7 回企画テーマ展 「あったかい住まい」

平成 29 年度の館出版物への執筆(20 件) (当館職員は下線)

『北海道博物館研究紀要』第 3 号

種 別	著 者 名	タ イ ト ル	ペー ジ
論 文	<u>杉山智昭</u>	津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価 (II) —紙製文化財に対する好気性糸状菌の活動抑制効果について—	1~7
研究ノート	<u>東俊佑</u>	「土人給料勘定」のしくみ (I) —北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—	9~66
研究ノート	<u>会田理人</u>	全道樺太実業野球大会	67~77
調 査 報 告	<u>水島末記</u> ・野幌森林公園植物調査の会・ <u>扇谷真知子</u> ・ <u>濱本真琴</u> ・ <u>堀繁久</u> ・ <u>表溪太</u>	野幌森林公園地域の種子植物相	79~118
調 査 報 告	<u>添田雄二</u> ・ <u>青野友哉</u> ・ <u>三谷智広</u> ほか	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響III	119~132
調 査 報 告	<u>加瀬善洋</u> ・ <u>林圭一</u> ・ <u>圓谷昂史</u> ・ <u>添田雄二</u> ・ <u>栗原憲一</u> ほか	北海道北広島市西の里で認められたサンドリッジ堆積物の堆積相・古流向とその意義	133~141
調 査 報 告	<u>圓谷昂史</u> ・ <u>添田雄二</u> ・ <u>栗原憲一</u> ほか	北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代	143~161
調 査 報 告	<u>右代啓視</u> ・ <u>鈴木琢也</u> ほか	千島列島における人類活動史の考古学的総合研究 (III) —特に北方四島の先史文化研究を中心に—	163~178
調 査 報 告	<u>舟山直治</u> ・ <u>村上孝一</u> ・ <u>尾曲香織</u> ・ <u>竹田聡</u>	滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承	179~192
調 査 報 告	<u>尾曲香織</u>	新十津川における女性のくらし —結婚や出産に関わる習俗の変化についての一考察—	193~199
調 査 報 告	<u>栗原憲一</u> ・ <u>池田貴夫</u> ・ <u>堀繁久</u>	来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびまっけん広場の現状と課題	201~218
博 物 館 活 動 報 告	<u>東俊佑</u>	北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用	219~252
調 査 報 告	<u>山田伸一</u>	開拓使とキツネ	260~253 (7~14)
研究ノート	<u>山田伸一</u>	明治期北海道における人とハクチョウ	261~266 (1~6)

(※ ()内の数字は縦書きページのページ数)

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号

種 別	著 者 名	タ イ ト ル	ペー ジ
論 文	北原次郎太 (依頼執筆)	アイヌ文様は「魔除け」か —衣文化に付随する通説を検証する—	1~18
論 文	<u>大坂拓</u>	アイヌ民族の荷縄 —地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討—	19~50
論 文	<u>大坂拓</u>	北海道アイヌの「死者用靴」 —日高東部地域の東方系出自集団に固有の死装束とその周辺—	51~72
調 査 報 告	<u>甲地利恵</u>	アイヌ音楽の音声資料 —公刊されたアナログレコード盤—	73~116
調 査 報 告	<u>大谷洋一</u>	アイヌ口承文芸「散文説話」 —人間の女に惚れたフリを殺した男—	117~133
資 料 紹 介	<u>大坂拓</u>	北海道新ひだか町静内収集の編袋 —新ひだか町博物館所蔵資料の紹介—	135~138
資 料 紹 介	<u>小川正人</u> ・ <u>大坂拓</u>	釧路市・清野写真館旧蔵写真 —2017 年度新収蔵資料の紹介—	139~148
資 料 紹 介	田村将人 (依頼執筆)	先住民族政策に関する権太庁文書	166~149 (1)~(18)

(※ ()内の数字は縦書きページのページ数)

特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行

図録	北海道博物館第 3 回特別展「プレイボール! —北海道と野球をめぐる物語—」ガイドブック
企画テーマ展	第 8 回企画テーマ展 「夜の森 ようこそ! 動物たちの世界へ」
パンフレット	第 9 回企画テーマ展 「弥永コレクション」
	第 10 回企画テーマ展 「カムイとアイヌのものがたり」

(2) 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆

平成 28 年度の学会誌等、館外出版物への執筆(47 件)

【学芸部長(1 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
舟山直治	北海道博物館の開館一周を迎えて	北海道北方博物館交流協会 会報 第 28 号	一般財団法人 北方博 物館交流協会	38~39

【自然研究グループ(9 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
水島未記	台湾に捕鯨遺構を追って	セトケンニューズレター 第 36 号	日本セトロジー研究会	4~5
水島未記・堀繁久	生態系を「その他大勢」にどう伝えるかー北海道博物館における新たな自然史展示の試みー	日本科学教育学会年会論 文集 40	日本科学教育学会	31~34
白石英才・水島未記・オリガ コヴァン	ニヴフ語音声資料 13(シュムット方言)ーオリガ・ボリンヴァ・コヴァンー		札幌学院大学	
青野友哉・西本豊弘・添田雄二ほか	伊達市若生貝塚、カムイタブコ下遺跡、室蘭市絵鞆貝塚	遺跡調査報告会資料集	北海道考古学会	65~72
圓谷昂史	海は温暖化しているのか? 漂着貝類から海洋環境を探る	北の学芸員とっておきの 《お宝ばなし》北海道で 残したいモノ伝えたいコト	寿郎社	139~144
圓谷昂史	この秋は、北海道博物館でビーチコーミング	モーリー 第 44 号	公益財団法人北海道新聞 野生生物基金	72
圓谷昂史・水島未記	北海道博物館における漂着物への取り組み	セトケンニューズレター 第 36 号	日本セトロジー研究会	8
鈴木明彦・圓谷昂史	徳之島の打ち上げ貝類	漂着物学会誌 第 14 巻	漂着物学会	27~33
鈴木明彦・圓谷昂史	北海道余市湾沿岸における 2014 年秋のアオイガイの漂着記録	ちりぼたん(日本貝類学会 研究連絡誌) 第 45 巻	日本貝類学会	10~15

【歴史研究グループ(19 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
右代啓視	オホーツク文化の展開	北海道史事典	北海道出版企画センター	59~67
山田伸一	アイヌ語地名の近現代史	北海道史事典	北海道出版企画センター	320~323
三浦泰之	松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(3)ー安政四年(1857)分(2)ー	松浦武四郎研究会会誌 第 72 号	松浦武四郎研究会	29~31
三浦泰之	北海道史に関わって活字化されている、主な史料および史料集の目次情報	北海道史事典	北海道出版企画センター	479~544
三浦泰之	松前三湊の繁栄	北海道史事典	北海道出版企画センター	145~148
三浦泰之	【研究大会の発表要旨】資料編	会報 99・100 号合併号 (北海道史研究協議会 50 周年記念特別号)	北海道史研究協議会	61
三浦泰之	「移住」してきた(古文書)は語る	北の学芸員とっておきの 《お宝ばなし》北海道で 残したいモノ伝えたいコト	寿郎社	315~319
鈴木琢也	平泉政権下の北方交易システムと北海道在地社会の変容	歴史評論 No.795	歴史科学協議会・校倉書房	16~27
鈴木琢也	須恵器からみた古代の北海道と秋田	北方世界と秋田城 考古 学リーダー25	六一書房	191~213
鈴木琢也	書評 関根達人著『中近世の蝦夷地と北方交易 アイヌ文化と内国化』	歴史 127 輯	東北史学会	173~182

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
鈴木琢也	北海道地域の動態—交流・交易を中心として—	日本考古学協会 2016 年度弘前大会「北東北 9・10 世紀社会の変動」研究発表資料集	日本考古学協会	107～122
鈴木琢也	北海道地域の動態—交流・交易を中心として—	日本考古学協会 2016 年度大会研究発表要旨集	日本考古学協会	58～59
東俊佑	間宮林蔵の蝦夷地・アムールランド調査	北海道史事典	北海道出版企画センター	211～212
東俊佑	サンタン交易の幕府直営化とアイヌ	北海道史事典	北海道出版企画センター	213～214
東俊佑	日露通好条約と樺太アイヌ	北海道史事典	北海道出版企画センター	239～243
東俊佑	「トコンヘ一件」再考—北蝦夷地ウシヨロ場所におけるアイヌ支配と日露関係—	北東アジアにおける帝国と地域社会	北海道大学出版会	27～60
春木晶子	アイヌを描いた絵	北海道史事典	北海道出版企画センター	185～190
春木晶子	蝦夷地に渡った義経の物語 —北海道の絵馬から—	北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト	寿郎社	272～279
春木晶子	第69回全国大会研究発表要旨「異なる功臣 —「夷曾列像」の制作と受容—	美術史 181 号	美術史学会	

【生活文化研究グループ(3件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
池田貴夫	日本領期の樺太における温泉開発と温泉をめぐる人びとの精神誌	北東アジアにおける帝国と地域社会	北海道大学出版会	447～478
会田理人	「ニシン釜」はどこで作られていた？	北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト	寿郎社	310～314
青柳かつら	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発Ⅱ: 独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題	第 128 回日本森林学会大会学術講演集	日本森林学会	191

【博物館研究グループ(13件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
Akiyama, H. & S. Hori	A New Species of the Genus <i>Aessinia</i> (Coleoptera, Oedemeridae) from Central Honshu and Southwestern Hokkaido	Elytra N.S. 06(1)	日本甲虫学会	47～50
堀繁久	【グラビアシリーズ: 昆虫の横顔】北海道の昆虫	昆虫 N.S. 19(3)	日本昆虫学会	130～132
堀繁久	江差町の海岸で見えられたムネスジフトカミキリモドキ(新種)について	道南虫の会会報 22	道南虫の会	19～20
堀繁久・安細元啓	北海道の希少昆虫	モーリー 第 43 号	北海道新聞社	18～21
堀繁久・八谷拓真	チャイロチビゲンゴロウを北海道から確認	月刊むし 550	むし社	8
杉山智昭	北海道博物館リニューアルにおける環境保全	北海道・東北保存科学研究会共同シンポジウム要旨集	北海道・東北保存科学研究会	35～36
杉山智昭	X線 CT によるアイヌ民族資料「ケマウシベ(行器)」の制作技法および劣化現況に関する調査	文化財保存修復学会第 38 回大会発表要旨集	文化財保存修復学会	61～62
杉山智昭	寒冷地における歴史的建築物の保存にむけて	東北芸術工科大学文化財保存修復センター紀要	東北芸術工科大学	69～72
栗原憲一	ジオパークにおける博物館活動の役割—三笠ジオパークの三笠市立博物館の事例とともに—	地学雑誌 125 巻 6 号	東京地学協会	831～839

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
Kurihara, K., Kano, M., Sawamura, H. and Sato, Y.	The Last Surviving Ammonoid at the end of the Cretaceous in the North Pacific Region	Paleontological Research 20(2)	Paleontological Society of Japan	116~120
栗原憲一	なぜアンモナイトは世界中から産出するのか	北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト	寿郎社	100~107
栗原憲一	あとがきにかえて	北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト	寿郎社	340~343
栗原憲一	三笠ジオパーク	化石ウォーキングガイド 全国版	古今書院	6~11

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(2件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
小川正人	近代北海道の成立過程における先住民族の「移住」	北海道史事典	北海道出版企画センター	268~272
大谷洋一	アイヌ口承文芸で語られる河童について	口承文芸研究第40号	日本口承文芸学会	22~35

平成29年度の学会誌等、館外出版物への執筆(29件)

【学芸部長(2件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
舟山直治	第3章『松前神楽』の伝承	国記録選択無形民俗文化財	北海道教育委員会	37~48
舟山直治	第4章第2節3「松前神楽函館連合保存会」	調査報告書 松前神楽		108~125
舟山直治	北海道における民俗芸能の伝承とその特徴について	北海道の文化 vol.90	北海道文化財保護協会	4~21

【自然研究グループ(6件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
三谷智広・添田雄二ほか	伊達市カムイタブコブ下遺跡	遺跡調査報告会資料集	北海道考古学会	41~44
Keita Omote, Tetsuo Kohyama, Chizuko Nishida, Keisuke Saito, Satoshi Fujimoto, Ryuichi Masuda	Duplication and variation in the major histocompatibility complex genes in Blakiston's fish owl, <i>Bubo blakistoni</i>	Zoological Science	Zoological Society of Japan 34(6)	484~489
Keita Omote, Sergei G. Surmach, Tetsuo Kohyama, Takeshi Takenaka, Chizuko Nishida, Ryuichi Masuda	Phylogeography of continental and island populations of Blakiston's fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) in Northeastern Asia	Jornal of Raptor Reseach	The Raptor Research Foundation 52(1)	31~41
鈴木明彦・圓谷昂史	2016年秋の北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着	漂着物学会誌	漂着物学会	23
鈴木明彦・圓谷昂史・志賀健司・小林真樹・石川慎也	北海道沿岸へ漂着した暖流系浮表性巻貝類とクラゲ類	地球科学 71巻	地学団体研究会	89~91
Akihiko Suzuki, Shigeo Hayashi and Takafumi Enya	Distribution patterns and ecology of the violet shells, <i>Janthinidae</i> , in the Japanese Islands based on stranding records	Proceeding of Asian Marine Biology Symposium	Prefectural University of Kumamoto	49~50

【歴史研究グループ(6件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
Hiroshi, USHIRO	Study of the History of Anthropogenic Activity on the Kuril Islands and an Approach to Solving Problems Existing in the Area.	Circum-pacific Archeology: In the Memory of Igor Yakovlevich Shevkomud	The Pacific Publishing House "Rubezh", Vladivostok	407~416
右代啓視・近藤玲介・嵯峨山積・重野聖之・疋田吉樹・横田彰宏	第IV章 第1節 古環境復元と遺跡の立地	浜頓別町ブタウス遺跡報告書	浜頓別町教育委員会	263~242
三浦泰之	北海翁著 梅嵯峨誌	松浦武四郎研究会会誌 第73号	松浦武四郎研究会	1~7
三浦泰之	松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(4) 一安政四年(1857)分(3)ー	松浦武四郎研究会会誌 第73号	松浦武四郎研究会	8~19
三浦泰之	松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(5) 一安政五年(1858)分(1)ー	松浦武四郎研究会会誌 第74号	松浦武四郎研究会	12~19
鈴木琢也	平泉関係遺跡集成「北海道」	平泉関係遺跡集成	科学研究費基盤研究(B)「平泉研究の資料学的再構築」研究代表者 柳原敏昭	1~34

【生活文化研究グループ(6件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
池田貴夫	第4章第1節3「道具・衣装」 第4章第2節1「公開状況総論」 第4章第2節5「福島町松前神楽保存会」	国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽	北海道教育委員会	85~100 101~102 131~134
池田貴夫	モノの処分を考える旅 ー「糞突き棒」を探しつつー	まほら 第93号	旅の文化研究所	44~45
青柳かつら	旭川市東旭川における高齢者参加型地域資源マップ製作の効果と課題	第129回日本森林学会大会 学術講演集	日本森林学会	210
青柳かつら	JSPS 科研費 15K01153 報告書1. 博物館を拠点とした高齢者と協働する地域学習プログラム集			
青柳かつら	JSPS 科研費 15K01153 報告書2. 土別市朝日町の歴史と文化: 回想法サロンと異世代交流の記録			
尾曲香織	「出産・生育」「婚姻」「食と儀礼」ほか	土浦市民俗調査報告書 第2集 藤沢・斗利出の民俗ー桜川左岸の低地・台地の環境と暮らしー	土浦市立博物館	

【博物館研究グループ(6件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
堀繁久	増補改訂版 探そう! ほっかいどうの虫		北海道新聞社	
堀繁久	2-7 止水域の水生昆虫	日本の湿地	朝倉書店	52~53
杉山智昭	X線CTと3Dプリンタを駆使したアイヌ民族資料「イカヨブ(狩猟用矢筒)」の内部構造および内容物の可視化	文化財保存修復学第39回大会講演発表要旨集	文化財保存修復学会	50~51
Kurihara, Ken'ichi	The oldest Asian hesperornithiform from the Upper Cretaceous of Japan, and the phylogenetic reassessment of Hesperornithiformes	Journal of Systematic Palaeontology Vol.18. issue 8	Taylor & Francis National History Museum	689~709

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
Kurihara, Ken'ichi	A new species of Eubostrychoceras (Ammonoidea, Nostoceratidae) from the lower Campanian in the northwestern Pacific realm	Paleontological Research 21(3)	Paleontological Society of Japan	255~264
栗原憲一	模型製作で科学コミュニケーションー北広島マンモス大復活プロジェクトー	日本サイエンスコミュニケーション協会誌 7(1)	日本サイエンスコミュニケーション協会	48~49

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(3件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
遠藤志保	アイヌ英雄叙事詩におけるハヨクペの語られ方	口承文芸研究 第41号	日本口承文芸学会	58~65
遠藤志保	北海道	47 都道府県・妖怪伝承百科	丸善出版	34~39
遠藤志保	アイヌ英雄叙事詩における登場人物の感情表現	ひろがる北方研究の地平線 中川裕先生還暦記念論文集	サッポロ堂書店	65~73

(3) 学会、研究会での発表

平成28年度の学会、研究会での発表(25件)

【自然研究グループ(11件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
水島未記・堀繁久	生態系を「その他大勢」にどう伝えるかー北海道博物館における新たな自然史展示の試みー	日本科学教育学会 年会	8月19日	大分市
山崎真実・水島未記・植村純平・持田誠ほか	市民ボランティアとの共同による北海道野幌森林公園のため池の水生植物相調査(ポスター発表)	日本生態学会全国大会	3月16日	早稲田大学
白石英才・丹菊逸治・水島未記	Лингвистический и ботанический атлас Северо-Восточной Азии	Международной Научной Конференции «ИЗ ВЕКА В ВЕК...»	9月13日	ユジノサハリンスク
添田雄二	カムイタブコブ下遺跡	北海道考古学会	12月10日	北海道大学
添田雄二	有珠からひもとく小氷期の自然環境とアイヌ民族の暮らし I	科研成果報告会	3月11日	伊達市
圓谷昂史・水島未記・堀繁久・渡辺修	海岸漂着物を活用したアウトリーチ活動の取り組み	北海道自然史研究会	2月18日	北海道大学
桑原尚司・圓谷昂史	科学館での漂着物に対する教育普及の取り組み	漂着物学会北海道大会	10月22日	北海道博物館
藤村祐輔・圓谷昂史・鈴木明彦	北海道石狩地域の海浜砂の鉱物組成とその起源	漂着物学会北海道大会	10月22日	北海道博物館
鈴木明彦・山崎史穂子・圓谷昂史	木材質生痕化石テレドリテス: フナクイムシの1億年	漂着物学会北海道大会	10月22日	北海道博物館
表溪太	シマフクロウの集団史ーDNA分析による研究ー	シンポジウム「北海道と北方四島の希少鳥類・シマフクロウ・タンチョウ・オジロワシの“今”を知る」	6月12日	斜里町
表溪太	ロイヤルアルバートミュージアム(カナダ)の事例	公開ワークショップ「海外の自然史博物館における収蔵庫と収蔵展示を考える」	2月3日	大阪市

【歴史研究グループ(6件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
右代啓視	北方四島の考古学ー択捉島調査ー	北方島文化研究会	7月2日	札幌市
三浦泰之	「北海道史事典」のみどころを語る 資料編	北海道史研究協議会	6月19日	札幌市

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
東俊佑	日本におけるフヴォストフ事件関係史料	国際研究集会『コレクション形成史からみる日露関係史—ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所(IOM)所蔵アイヌ・北方関係史料の共同研究—』	7月10日	北海道大学
東俊佑	フヴォストフ事件についての日本側史料	国際研究集会『ロシアと日本側の史料にみる日露関係』	10月5日	ロシア国立経済高等大学
鈴木琢也	北海道地域の動態—交流・交易を中心として—	日本考古学協会「2016年度弘前大会」	10月16日	弘前大学
春木晶子	「異」なる功臣 —「夷酋列像」の制作と受容—	第69回美術史学会全国大会	5月29日	筑波大学

【生活文化研究グループ(1件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
青柳かづら	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発II:独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題	日本森林学会	3月28日	鹿児島市

【博物館研究グループ(3件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
杉山智昭	X線CTによるアイヌ民族資料「ケマウシベ(行器)」の制作技法および劣化現況に関する調査	文化財保存修復学会第38回大会	6月26日	東海大学
杉山智昭	北海道博物館リニューアルにおける環境保全	北海道・東北保存科学研究会共同シンポジウム	7月11日	北海道大学
栗原憲一	展覧会を利用した博物館からジオパークへの動線づくり	第7回日本ジオパーク全国大会 日本ジオパーク伊豆半島大会	10月11日	静岡県

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(4件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
小川正人	北海道博物館のリニューアル	全国歴史民俗系博物館協議会 第5回年次集会	7月7日	金沢市
小川正人	函館・谷地頭のアイヌ学校生徒の、釧路・春採の学校への派遣について	教育史学会第60回大会	10月2日	横浜市
小川正人	佐藤秀夫と教育史資料—アイヌ教育史への関心と提言をいどぐちに—	教育史学会第60回大会(コロキウム「日本教育史研究の系譜—佐藤秀夫の研究論考・教育史史料研究・教育史史料公開」中の報告)	10月2日	横浜市
大谷洋一	アイヌ口承文芸で語られる河童について	日本口承文芸学会	6月5日	札幌市

平成29年度の学会、研究会での発表(21件)

【学芸部長(1件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
舟山直治	北海道の民俗芸能にみる地域性	北海道地域文化研究学会	3月3日	北星学園大学

【自然研究グループ(7件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
水島未記	サハリン・樺太におけるシロイルカの古い記録についての雑記	日本セトロジー研究会	6月25日	北海道博物館

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
水島未記・松石隆	ストランディングネットワーク北海道 全記録 [2007-2016] (ポスター発表)	日本セトロジー研究会	6月25日	北海道博物館
添田雄二	有珠の遺跡から紐解く 17世紀のアイヌ民族の暮らしと古環境	日本学術振興会 科研費 15H03272 研究成果報告会 II	2月24日	北海道大学
添田雄二ほか	小氷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 I - 北海道伊達市カムイタブコブ下遺跡調査速報	日本文化財科学会	6月10日 ～11日	東北芸術工科大学
三谷智広・添田雄二ほか	カムイタブコブ下遺跡	北海道考古学会	12月9日	北海道大学
圓谷昂史・鈴木明彦	サハリン島南部地域における海岸漂着物の特徴について	漂着物学会	10月13日	熊本県天草市
Akihiko Suzuki, Shigeo Hayashi and Takafumi Enya	Distribution patterns and ecology of the violet shells, Janthinidae, in the Japanese Islands based on stranding records	3rd Asian Marine Biology Symposium	11月4日	Kumamoto

【歴史研究グループ(4件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
右代啓視・鈴木琢也	北方四島の考古学－択捉島の調査－	北方島文化研究会	12月16日	北海道博物館
山田伸一	書評『樺太40年の歴史』	サハリン・樺太史研究会	10月28日	札幌市
鈴木琢也	平泉遺跡群と同時期に展開した北海道の遺跡	シンポジウム「平泉研究の最前線」	12月10日	岩手県平泉町
東俊佑	安永7年の蝦夷地奉行定書について	北海道・東北史研究会	5月27日	学習院大学

【生活文化研究グループ(2件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
池田貴夫	日本領期の樺太における温泉開発と樺太島民	サハリン・樺太史研究会 第42回例会	7月22日	北海道大学
青柳かつら	旭川市東旭川における高齢者参加型地域資源マップ製作の効果と課題	日本森林学会	3月28日	高知市

【博物館研究グループ(6件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
堀繁久	探そう！ほっかいどうの虫	釧路湿原国立公園指定30周年記念企画展関連講演会	8月11日	釧路市立博物館
堀繁久	虫を探す、とる、調べる	コガネムシ研究会	9月23日	東京都サンケイ会館
杉山智昭	X線CTと3Dプリンタを駆使したアイヌ民族資料「イカヨブ(狩猟用矢筒)」の内部構造および内容物の可視化(ポスター発表)	文化財保存修復学会	7月1日～2日	金沢市
杉山智昭	寒冷地域における遺跡や石造文化財の保存・修復に関する研究	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター専門家会議	11月18日～19日	山形市
栗原憲一	北海道博物館における来館者参加型展示・ヒグマアンケートについて	北海道自然史研究会	2月25日	小樽市
小林孝二	建築学的視点から見えてくる有珠チセ(住居)の特徴	科研費研究成果報告会「有珠の遺跡から紐解く 17世紀のアイヌ民族の暮らしと古環境」	2月24日	北海道大学

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(1件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
小川正人	紗那学校の歴史ー開拓使が択捉島に設置したアイヌ歴史ー	学校の教育史学会第61回大会	10月7日	岡山市

(4) 招待講演(講座・講演会)等への職員派遣

平成28年度の招待講演(講座・講演会)等への職員派遣(60件)

【学芸部長(1件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
舟山直治	講師	北海道博物館を知る	平成28年度第1期えるのす連続講座～女性大学～	公益財団法人北海道女性協会	8月25日

【自然研究グループ(3件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
添田雄二	講師	マンモスゾウとオオツノシカについて	由仁町高齢者教養講座「ユニ・カレッジ」	由仁町教育委員会	8月25日
添田雄二	講師	400年前の津波と噴火湾沿岸に暮らした人々	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	1月28日
圓谷昂史	講師	ワークショップ「漂着物から身近な海の環境をさぐってみよう」	NHK 環境セミナー「ジオパークの海を学ぼう！」	NHK 室蘭放送局	7月31日

【歴史研究グループ(23件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
右代啓視	講師	夷酋列像を考える	みんぱくゼミナール	国立民族学博物館	4月16日
右代啓視	講師	小平町文化財の重要性とその活用	小平町の文化財を活用した環境整備計画策定委員会シンポジウム「小平町の宝を知る 文化財と子ども笑顔を輝かせるために」	小平町教育委員会	9月10日
右代啓視	講師	北海道の歴史文化	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	9月12日
右代啓視	講師	人類活動史からみた千島列島と北方四島	交流推進会議(テーマ「北方四島の自然と歴史」)	道東3管内博物館施設等連絡協議会	10月20日
右代啓視	講師	千島列島の考古遺跡	美術博物館大学講座	苫小牧市美術博物館	11月26日
右代啓視	講師	北海道の歴史文化2	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	2月13日
右代啓視	講師	「天塩町の歴史的な文化財の再発見」について	天塩かわまちづくり勉強会	天塩かわまちづくり検討会、天塩町	2月25日
山田伸一	講師	開拓使はオオカミとどう付き合ったのか	生き物文化誌学会例会	生き物文化誌学会	11月5日
山田伸一	講師	「北海道」の始まりから「北海道旧土人保護法」までー土地、狩猟と漁業の資源ー	アイヌ民族文化祭2016	公益社団法人北海道アイヌ協会	1月21日
三浦泰之	講師	北海道の歴史	平成28年度北海道職員研修 新採用職員研修I	北海道人事局人事課	5月13日
三浦泰之	講師	板垣家文書から迫る入植当時の南幌の様子	平成28年度ふるさと南幌みらい塾(生涯学習講座)「シリーズ南幌の歴史」	南幌町教育委員会	8月25日
三浦泰之	講師	北海道開拓と土族移住	講座「地域の歴史を学ぶ◎岩出山」	東北大学東北アジア研究センター	9月16日～17日
三浦泰之	講師	北海道の「命名」と松浦武四郎	北海道の日条例案(仮称)検討会議勉強会	北海道議会	9月27日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
三浦泰之	講師	明治維新と北海道～蝦夷地から北海道へ	平成 28 年度いしかり市民カレッジ 講座 12(1)	いしかり市民カレッジ運営委員会	10月7日
三浦泰之	講師	北海道の開拓とお雇い外国人～欧米文化の移植	平成 28 年度いしかり市民カレッジ 講座 12(2)	いしかり市民カレッジ運営委員会	10月21日
三浦泰之	講師	林家文書と近世の蝦夷地	平成 28 年度余市町歴史探訪講座	余市町教育委員会	11月20日
三浦泰之	講師	北海道の「命名」と松浦武四郎	「北海道みんなの日条例(仮称)案」検討会議に係る研修会兼報告会	北海道議会	12月5日
三浦泰之	講師	北海道の名づけ親・松浦武四郎の生涯をたどる	松浦武四郎 勉強会	NHK 札幌放送局	12月5日
三浦泰之	講師	松浦武四郎とアイヌ民族が見たジオパーク	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	1月6日
三浦泰之	講師	幕末の探検家 松浦武四郎と類似	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	1月27日
三浦泰之	講師	松浦武四郎及び北海道命名について	天塩川フォーラム	上川総合振興局	2月12日
東俊佑	講師	北海道の歴史	平成 28 年度北海道職員研修 新採用職員研修 I	北海道人事局人事課	5月27日
春木晶子	講師	江戸のエゾ像―「夷酋列像」が織りなすイメージ	平成 28 年度文化財講演会	北海道文化財保護協会	6月11日

【生活文化研究グループ(9件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
池田貴夫	講師	積雪寒冷地の生活と諸課題	(第3学年対象の講義)	北海道医療大学リハビリテーション科学部	6月23日
池田貴夫	講師	捨てられるモノ、捨てられないモノーモノに抱くそれぞれの思いー	特別企画展「昭和の暮らし・しごと」関連講演会	帯広百年記念館	9月24日
池田貴夫	講師	はじめての楽しい手作りお正月～おせち料理としめ縄作り	札幌市民カレッジ 2016 秋季講座	札幌市生涯学習センター	11月25日
会田理人	講師	ハッカ釜のナゾにせまる!	博物館講座「北海道昔ばなし」	美幌博物館	10月1日
会田理人	講師	北海道漁業史ー歴史から見えるコト・わかるコトー	アクアバイオ学特別講義	東京農業大学生物産業学部	11月16日
青柳かつら	講師	古い生活道具と昔の遊び	平成 28 年度第 1 回ふれあいサロン	あさひ自治会	5月31日
青柳かつら	講師	昔の娯楽とくつろぎ	平成 28 年度第2回ふれあいサロン	あさひ自治会	6月27日
青柳かつら	講師	探してみよう! 朝日のお宝:朝日町郷土資料室を核とした地域資源の魅力再発見の取り組み	ちえぶんひまわりの会例会	ちえぶんひまわりの会	9月12日
青柳かつら	講師	旧佐藤医院(T14～H11)にて当時の医療、薬、病気のお話	平成 28 年度第3回ふれあいサロン	あさひ自治会	10月4日

【博物館研究グループ(11件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
堀繁久	講師	北海道の昆虫の多様性から地域の生物相を考える	第 25 回ふるさといきもの郷フォーラム 2016 栗山大会	雨狸別小学校ほか	7月23日
杉山智昭	講師	アイヌ民族資料の保存修復と科学調査	二風谷アイヌ文化博物館公開セミナー	二風谷アイヌ文化博物館	10月16日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
栗原憲一	講師	北海道の古生物研究最前線	地図研北海道支部総会 2016 年 特別講演会	地図研北海道支部	4月17日
栗原憲一	講師	ジオパークへ行こう！～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～	ほっかいどう学(自然環境の会)講演会	ほっかいどう学(自然環境の会)	6月4日
栗原憲一	講師	(特別展の製作物やコンテンツにおけるデザイン等にかかる講話)	東洋美術学校学生への講義	北海道地図株式会社	7月21日
栗原憲一	講師	ジオパークへ行こう！～アンモナイトから石炭まで 1 億年時間旅行を体験しよう！	北海道博物館×まなぶんサマースクール	北海道新聞社	8月5日
栗原憲一	講師	(参加者が持ち寄る岩石等の鑑定及び岩石の名称や岩石のできる環境について教示)	石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2016	日高山脈博物館	11月26日
栗原憲一	講師	地域におけるジオパークの意義:拠点施設の重要性とその役割	第4回ジオ・フォーラム「カムイの大地ジオパーク構想を広めよう～大地に学び大地を語る～」	あさひかわジオパークの会	12月3日
栗原憲一	講師	松浦武四郎とアイヌ民族が見たジオパーク	北海道の自然・歴史・文化講座	北海道地図株式会社	1月6日
栗原憲一	講師	ジオパーク基礎 5「情報発信と環境教育」	平成 28 年度「ジオパーク集中講座」	公立鳥取環境大学	3月1日～4日
栗原憲一	講師	“伝える”をデザインする	第9回 JGN 全国研修会	日本ジオパークネットワーク	3月11日～12日

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(13件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
小川正人	講師	学校をつくる～明治期北海道のアイヌ教育の歴史～	美術博物館大学講座	苫小牧市美術博物館	8月20日
小川正人	講師	いまアイヌ語地名を歩く	全国青年団OB会 第35回総会北海道大会	全国青年団OB会	9月4日
小川正人	講師	函館アイヌ学校の金成マツとナミ	知里幸恵フォーラム'16 in 登別	NPO 法人知里森舎	9月17日
小川正人	講師	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～	博物館講座	美幌博物館	10月8日
小川正人	講師	アイヌ語調査資料の整理・公開のありかたと「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」について	研究活動活性化事業「アイヌ語音声・映像資料コレクションにかんする研究報告会」	札幌学院大学総合研究所	12月10日
甲地利恵	講師	オホーツク海をとりまく地域の先住民の音楽～アイヌ音楽から考える～	第24回「環オホーツク海文化のつどい」	北の文化シンポジウム実行委員会・紋別市教育委員会	8月20日
甲地利恵	講師	アイヌ音楽の中の多様性	アイヌ文化講演会	Rehe Isam	11月25日
甲地利恵	講師	演習Ⅱ(アイヌ民俗芸能)	アイヌ民俗文化財伝承・活用事業総合伝承講座	公益社団法人北海道アイヌ協会	12月17日
遠藤志保	講師	アイヌについて学ぶ	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	10月1日
遠藤志保	講師	えんがるのアイヌ語地名と洪水伝説	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	10月20日
遠藤志保	講師	地図のうえのアイヌ語地名(松浦武四郎とアイヌ民族が見たジオパーク)	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	1月6日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
遠藤志保	講師	アイヌの暮らしとアイヌ語地名	北海道の自然・歴史・文化講座	北のミュージアム活性化実行委員会	2月2日
出利薬浩司	講師	宗谷海峡を越えてー博物館資料と近世末期の古文書から考えるアイヌ民族の交易活動ー	南山大学人類学博物館 2016年度博物館講座「交易をめぐる4つの話題」	南山大学人類学博物館	6月4日

平成29年度の招待講演(講座・講演会)等への職員派遣(59件)

【自然研究グループ(8件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
水島未記	講師	世界遺産白神山とその保護について	(小学校5年生の国語科授業)	江別市対雁小学校	11月30日
水島未記	講師	植物としてのフキとその利用	蝦夷和紙プロジェクト2017	北の紙工房 紙びより	10月14日
添田雄二	講師	ナウマン象とマンモス象	平成29年度総会時研修会	北海道ボランティア・レンジャー協議会	4月15日
添田雄二	講師	フィールドワーク実施における現地案内	SSH課題研究に関するフィールドワークの現地案内	札幌日本大学高等学校	4月25日
添田雄二	講師	小氷期と巨大噴火津波そしてアイヌ民族	平成29年度「ユニ・カレッジ」	由仁町教育委員会	8月24日
圓谷昂史	講師	北海道博物館の学校利用プログラム	教員のための博物館の日	一般財団法人北海道歴史文化財団	7月27日
圓谷昂史	講師	海ごみについて考える 北海道とサハリンの漂着物からみた現状と課題	平成29年度守ろう美しい北海道!海ごみ・ポイ捨て防止大会	北海道環境生活部	1月12日
圓谷昂史	講師	海ごみについて考える ～北海道の海岸に流れ着く容器包装プラスチックを含む海ごみの特徴～	2017年度 容器包装の簡素化を進める勉強会	2017年度 容器包装の簡素化を進める勉強会	3月14日

【歴史研究グループ(27件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
右代啓視	講師	北方四島の歴史・文化遺産	北方領土遺産発掘・継承事業報告会	北海道根室振興局	3月3日
右代啓視	講師	北海道の歴史	H29度北海道職員研修 新採用職員I(前期)	北海道人事局人事課	6月22日
右代啓視	講師	千島列島の人類活動史を語る I	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	8月17日
右代啓視	講師	千島列島の人類活動史を語る II	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	11月17日
右代啓視	コメンテーター	ー	国際シンポジウム「朝鮮半島:北東アジアの安定は保てるか」	人間文化研究機構北東アジア地域研究プロジェクト	12月8日
三浦泰之	講師	武四郎の生涯と静内踏査	第5回シベチャリ武四郎まつり	新ひだかアイヌ協会	5月14日
三浦泰之	講師	北海道の歴史	H29度北海道職員研修 新採用職員I(前期)	北海道人事局人事課	5月25日
三浦泰之	講師	明治維新と北海道開拓～開拓期の光と影、近代化の波動～	さっぽろ市民カレッジ 2017 春・夏講座 「お雇い外国人と北海道開拓～欧米文化の移入～」	札幌市生涯学習センター	5月31日
三浦泰之	講師	(パネルディスカッション)	松浦武四郎まつり	北海道 150年物語実行委員会	7月17日
三浦泰之	講師	松浦武四郎の生涯	第3回道新さとほろ会	北海道新聞社	7月19日
三浦泰之	講師	史料から読み取る、武四郎の人物像	松浦武四郎フォーラム	士別市教育委員会	8月6日

氏名	種	別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
三浦泰之	講	師	チ・カ・ホで出会う, Hokkaido の偉人	チ・カ・ホで出会う, Hokkaido の偉人	北海道・札幌市政策研究みらい会議	9月8日
三浦泰之	講	師	北海道 150 年のあゆみ	北海道観光おもてなしタクシー乗務員制度におけるゴールド認定ブラッシュアップ研修	北海道観光おもてなしタクシー乗務員認定機構	10月2日
三浦泰之	講	師	松浦武四郎の道内足跡を訪ねる	伊達市郷土史研究会「第4回歴史研究会」	伊達市郷土史研究会	10月22日
三浦泰之	講	師	松浦武四郎研究の現状と課題	2017年度人文学会大会	北海学園大学人文学会	11月4日
三浦泰之	講	師	北海道の開拓と土族移住	ふるさと手稲ヒストリー・記念講演会	手稲郷土史研究会	11月11日
三浦泰之	講	師	幕末の志士 松浦武四郎の生涯	幕末の志士 松浦武四郎の生涯	苫小牧郷土文化研究会	11月18日
三浦泰之	講	師	北海道の記録映画～北の記憶を観る～	連続講座 映像によみがえる北海道	北海道立図書館	11月25日
三浦泰之	講	師	松阪と北海道を繋ぐ松浦武四郎の人物像とその功績	新春講演会	松阪北部商工会	1月9日～13日
三浦泰之	講	師	松浦武四郎のあゆみ	「札幌シティガイド検定」フォローアップ研修	札幌商工会議所	1月18日
三浦泰之	講	師	幕末の志士・松浦武四郎が見た登別	古文書教室	登別市教育委員会	2月3日
三浦泰之	講	師	幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎	十勝毎日新聞社社内向け講演	十勝毎日新聞社	2月20日
三浦泰之	講	師	北海道 150 年事業のキーパーソン 松浦武四郎の生涯	老人クラブりらの会例会	老人クラブりらの会	3月28日
山田伸一	講	師	北海道の歴史	H29 度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	道人事務局人事課	6月15日
鈴木琢也	講	師	北海道の歴史	H29 度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	道人事務局人事課	6月1日
東俊佑	講	師	北海道開拓記念館の誕生から北海道博物館まで	連続講座 映像によみがえる北海道	北海道立図書館	11月25日
東俊佑	講	師	北海道の歴史	H29 度北海道職員研修 新採用職員 I (前期)	道人事務局人事課	4月13日、5月18日

【生活文化研究グループ(5件)】

氏名	種	別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
池田貴夫	講	師	積雪寒冷地の生活と諸問題	(リハビリテーション科学部第3学年への講義)	北海道医療大学リハビリテーション科学部	6月22日
会田理人	講	師	北海道漁業史一歴史から見えるコト・わかるコト	アクアバイオ学特別講義	東京農業大学生産学部	12月11日
青柳かつら	講	師	博物館を拠点とする地域のお宝を活かしたまちづくり	講演会	旭川市兵村記念館	6月25日
青柳かつら	コーディネーター		博物館と情報	第56回北海道博物館大会	北海道博物館協会	7月6日
青柳かつら	講	師	博物館を拠点とする地域のお宝を活かしたまちづくり	ちえぶんひまわりの会9月開催行事	ちえぶんひまわりの会	9月14日

【博物館研究グループ(9件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
堀繁久	講師	こんなにすごい!! 身近な生き物たち	サイエンスパーク千歳	千歳科学技術大学	7月30日
堀繁久	講師	野幌森林公園の生き物たち	ボランティアレンジャーレベルアップ講習	一般財団法人北海道歴史文化財団	2月18日
栗原憲一	講師	ジオパークにおける教育と情報発信	2017 ジオパーク研修会講師	日本ジオサービス株式会社	5月22日～24日
栗原憲一	講師	地質学会が選定する北海道の化石「アンモナイト」について	日本地質学会北海道支部例会会議	日本地質学会北海道支部	6月17日
栗原憲一	講師	三笠ジオパーク ESD プロジェクト 2017	三笠ジオパーク ESD プロジェクト 2017	ソーシャルアドベンチャー あんじょう家本舗	9月24日～10月4日、10月22日
栗原憲一	講師	(参加者が持ち寄る岩石等の鑑定及び岩石の名称や岩石のできる環境について教示)	石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2017	日高町教育委員会	11月19日
栗原憲一	講師	博物館ゼミナール「小樽学」	博物館ゼミナール「小樽学」	小樽市総合博物館	3月18日
村上孝一	講師	北海道の鉄文化	シンポジウム「北海道の鉄文化」	一般社団法人日本鉄鋼協会	9月7日
村上孝一	調査	「北海道農事試験場初代調査」に対する調査協力	「北海道農事試験場初代調査」に対する調査協力	北海道立総合研究機構中央農業試験場	12月20日

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(10件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
小川正人	講師	伏根安太郎、帯広に学校をつくる	博物館講座	帯広百年記念館	5月13日
小川正人	講師	いま、ここ札幌でアイヌの歴史と文化を学ぶ	平成 29 年度第 1 期えるのす連続講座～女性大学～	公益財団法人北海道女性協会	6月12日
小川正人	講師	樺太アイヌ強制移住と歴史及び墓前祭	アイヌ民族文化交流会	少数民族懇談会	7月29日
小川正人	講師	十勝管内森林認証に関する勉強会	十勝管内森林認証に関する勉強会	十勝流域森林・林業活性化センター	2月19日
甲地利恵	講師	アイヌ音楽と出会う	平成 29 年度アイヌ文化フェスティバル東京会場	アイヌ文化振興・研究推進機構	8月26日
甲地利恵	講師	アイヌ音楽と出会う	第 39 回縄文講演会	噴火湾考古学研究会	10月21日
遠藤志保	講師	アニメ『オルシベ・スウォップ』で見るアイヌ口承文芸の世界	アイヌ文化普及啓発セミナー	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	7月27日、8月29日
遠藤志保	講師	洞爺湖有珠山ジオパークのアイヌ語地名とアイヌの伝承	ジオパーク・パートナー講座	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	2月18日
遠藤志保	講師	アニメで見るアイヌ口承文芸の世界	アイヌ民俗文化財伝承・活用事業総合伝承講座	公益社団法人北海道アイヌ協会	11月26日
大坂拓	講師	物質文化研究と考古学の接点	北海道考古学会 2017 年度研究大会	北海道考古学会	5月13日

2 資料の収集・保存・活用

当館では、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産を永く保存し、活用するため、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までを、各担当者が連携しながら行っています。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。そのなかで、文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）として文化庁より承認を受けました（平成 27（2015）年 8 月 10 日～平成 32（2020）年 8 月 9 日まで）。

当館の資料

平成 27（2015）年の北海道博物館の設置にともない、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は当館資料へと管理換が行われ、180,418 件の資料を有する博物館として開館しました。そのうち約 3,000 件が、総合展示に供されています。当館の資料収集は、道民からの日常的な電話連絡等による寄贈が大部分を占めています。

北海道開拓記念館資料	北海道立アイヌ民族文化研究センター資料
北海道開拓記念館の資料収集は、昭和 41（1966）年からスタートした北海道百年記念事業のなかで、昭和 43（1968）年～昭和 45（1970）年の 3 ヶ年、開設準備のひとつとして着手されました。この時期の資料収集は、道内各地に委嘱した開拓記念館資料調査協力員 166 名から提供された情報と協力をもとに、囀岬の調査収集委員と準備事務所職員が当たりました。この時期に収集された資料のうち、昭和 46（1971）年 4 月の開館までに整理・受入された資料は約 15,000 件でした。開館後の資料収集は開拓記念館の学芸員によって進められ、管理換、購入、寄贈、製作、採集、寄託資料として収集されました。閉館時（平成 26（2014）年度末）の資料数は 166,146 件でした。	北海道立アイヌ民族文化研究センターの資料収集は、購入、複写、寄贈を受けること及び伝承者・体験者等からの採録等により進められました。開所当初の平成 6（1994）年には、アイヌ語地名の研究者であった故・山田秀三氏の研究資料を「山田秀三文庫」として受贈し、平成 9（1997）年には、アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料を「久保寺逸彦文庫」として受贈しました。これらのコレクションが道立アイヌ民族文化研究センターの資料の基礎となり、閉所時（平成 26（2014）年度末）の資料数は 33,319 件でした。

資料収集方針

当館の資料収集は、北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つものを対象としています。具体的には以下のような性格を持つ資料を収集の対象としています。

- 1) 北海道の地学に関する資料（岩石、鉱物、化石、土壌など）
- 2) 北海道の生物に関する資料（動物、昆虫、植物、菌類及び生物と人間の関わりに関する資料など）
- 3) 北海道の先史文化および人類史に関する資料（土器、石器、骨角器、金属器、木製品など）
- 4) アイヌ民族を中心とする北方諸民族の文化の特徴、地域差、時代差、歴史等に関する資料（民具、言語、口承文芸、芸能、信仰、伝統的生活様式、歴史等に関する有形・無形の資料）
- 5) 北海道に住んだ人びとの生活に関する資料（衣・食・住など日常生活、儀礼、信仰、芸能など）
- 6) 北海道の産業に関する資料（農業、漁業、林業、鉱業、工業など）
- 7) 北海道の歴史に関する資料（文書、絵画、地図、写真、記録映画など）
- 8) 上記のものに関連する無形文化資料（伝承、技術など）

資料審査会

館資料の適切な収集、保存、活用について協議するため、館内の内部組織として館長を会長とする資料審査会を設置しています。資料審査会は、資料収集方針に関することや資料の受入の選定など、協議を要する案件が生じた時点で、案件に係る館内のグループからの要請にもとづき開催しています。平成 28（2016）年度は 7 回、平成 29（2017）年度は 11 回開催しました。

平成 28 年度資料審査会の構成（平成 28 年 4 月時点）

会 長	石森 秀三	館長
	中 村 亘	アイヌ民族文化担当副館長
	吉田 公伸	副館長
	北 敏 文	総務部長 兼総務部総括グループ主幹
	舟山 直治	学芸部長
	小川 正人	アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長 兼アイヌ文化研究グループ研究主幹
	右代 啓視	総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹
	堀 繁 久	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 兼研究部博物館研究グループ学芸主幹
	池田 貴夫	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 兼研究部生活文化研究グループ学芸主幹
	水島 未記	学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼研究部自然研究グループ学芸主幹
	山際 秀紀	学芸部博物館基盤グループ学芸主査 兼研究部生活文化研究グループ学芸主査
	村上 孝一	学芸部博物館基盤グループ学芸員 兼研究部博物館研究グループ学芸員

平成 29 年度資料審査会の構成（平成 29 年 4 月時点）

会 長	石森 秀三	館長
	中 村 亘	アイヌ民族文化担当副館長
	梅木 克也	副館長
	小川 正人	学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長
	川田 宣人	総務部長 兼総務部総括グループ主幹
	舟山 直治	学芸部長
	右代 啓視	総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹
	三浦 泰之	総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹
	堀 繁 久	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 兼研究部博物館研究グループ学芸主幹
	池田 貴夫	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 兼研究部生活文化研究グループ学芸主幹
	水島 未記	学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼研究部自然研究グループ学芸主幹
	甲地 利恵	アイヌ文化研究グループ研究主幹 兼学芸部社会貢献グループ研究主幹
	山際 秀紀	学芸部博物館基盤グループ学芸主査 兼研究部生活文化研究グループ学芸主査
	田村 雅史	学芸部博物館基盤グループ研究職員 兼アイヌ文化研究グループ研究職員

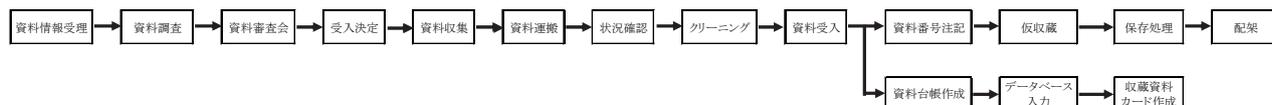
資料の収集

資料の受入・登録

資料は、受入手順に従って収集・登録し、収蔵庫に配架・保存します。

収蔵資料には収蔵番号が付され、「北海道博物館資料分類表」にもとづき、総集、記録、地学、生物、考古、民族、生活、産業、文書、美術の 10 の項目のいずれかに分類されます。受け入れた資料の情報は、全分野共通の資料台帳に登録するとともに資料データベースに入力して管理されます。

資料受入の手順



平成 28 年度の資料収集

資料情報件数	44 件	調査収集件数	18 件
--------	------	--------	------

平成 28 年度分類別・受入区分別件数

分類	平成 27 年度 までの累計	管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	累計(件)
0 総集	3,047								3,047
1 記録	10,926			154					11,080
2 地学	7,075				9				7,084
3 生物	6,863					3			6,866
4 考古	1,701			14					1,715
5 民族	5,727			176					5,903
6 生活	36,026			9					36,035
7 産業	20,905			310				-26	21,189
8 文書	87,588			998					88,586
9 美術	742			2					744
合計	180,600	0	0	1,663	9	3	0	-26	182,249

平成 28 年度地域別寄贈収集資料件数(1,663 件)

地域	札幌市	江別市	北広島市	千歳市	深川市	美瑛町	海外	計
資料件数	1,359	3	1	164	2	2	132	1,663

平成 29 年度の資料収集

資料情報件数	56 件	調査収集件数	32 件
--------	------	--------	------

平成 29 年度分類別・受入区分別件数

分類	平成 28 年度 までの累計	管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	累計(件)
0 総集	3,047								3,047
1 記録	11,080			4					11,084
2 地学	7,084			225					7,309
3 生物	6,866			1,013					7,879
4 考古	1,715			2					1,717
5 民族	5,903			87					5,990
6 生活	36,035			82					36,117
7 産業	21,189			183					21,372
8 文書	88,586			121				-796	87,911
9 美術	744			10					754
合計	182,249			1,727				-796	183,180

平成 29 年度地域別寄贈収集資料件数(1,727 件)

地域	札幌市	江別市	石狩市	室蘭市	東京都	千葉県	計
資料件数	884	793	1	1	24	24	1,727

一括資料目録

まとまった資料群については、資料群の概要や特徴などに関する解説を付けて紹介する『一括資料目録』を作成・発行しています。

平成 29(2017)年には、貨幣史や砂金を研究する弥永芳子さんの膨大なコレクションの一部が北海道博物館に寄贈されたことから、一括資料目録第 1 集として「弥永コレクション」を刊行しました。

(2018 年 3 月現在、頒布はしていませんが、北海道博物館ホームページから PDF ファイルが無料ダウンロードできます)



資料の収蔵と保存管理

受入・登録された資料は清掃され、分野別・形態別に割り当てた5室の収蔵庫に収蔵します。大型資料は木製棚に、小型資料は木・紙・プラスチック製の整理箱等に納め、木製棚又はスチール棚に配架しています。収納棚等は資料の性質、形態に合わせ出納が容易に行われるように配慮しています。

資料保存の環境を維持するため、当館では温湿度管理、定期清掃などといった、薬剤だけに頼らない方法による総合的有害生物防除管理（IPM）に取り組んでいます。具体的には、収蔵庫内の温度を夏季25℃・冬季22℃、湿度を55±5%に保持するほか、二酸化炭素バッグによる資料の殺虫処理、捕虫トラップの回収・設置・調査、落下菌による環境調査などを実施しています。また、情報の一元化を図り、総合的な温湿度管理を実施していくため、無線タイプのデータロガーシステムも導入しています。

そのほか、当館の施設管理を行う指定管理者と収蔵環境等に関する連絡会議を毎月行い、情報の共有を図っています。

資料保存に関する取り組み(平成28年度)

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 12回

IPMに関わる作業の実施回数 469回

IPMの実施内容	回数
① 捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）	114か所×月1回の調査を実施
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	年1回実施
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	3回実施
④ 収蔵庫清掃	11回実施
⑤ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1回（3日間）実施
⑥ 新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業	7回実施
⑦ 殺虫バッグによる収蔵庫搬入前の資料に対する二酸化炭素殺虫処理	15回実施
⑧ 開館日（305日）に毎日実施する、収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）	302回実施
⑨ その他、収蔵庫内の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング（充填）、異常時対応）	117回実施

資料保存に関する取り組み(平成29年度)

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 12回

IPMに関わる作業の実施回数 ※下記の⑥を除く 749回

IPMの実施内容	回数
① 捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）	114か所×月1回の調査を実施
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	年1回実施
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	3回実施
④ 収蔵庫清掃	12回実施
⑤ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1回（3日間）実施
⑥ 新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業	恒常的に実施
⑦ 殺虫バッグによる収蔵庫搬入前の資料に対する二酸化炭素殺虫処理	16回実施
⑧ 毎開館日（304日）に朝夕2回実施する、収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）	549回実施
⑨ 収蔵庫内除湿器稼働	130回実施
⑩ その他、収蔵庫環境の問題解決（収蔵庫シーリング（隙間の充填）作業、カビが発生した資料ならびにその収蔵環境に関する調査、漏水対応等）	23回実施
⑪ 新着資料ならびにカビが確認された資料の薬剤燻蒸（外部発注）	1回実施
⑫ 公開承認施設会議への担当者の参加	1回実施

資料情報の管理

収蔵された資料は、1点ごとに写真を撮影し、資料の年代、地域、形状、由来などの基礎情報をデータベースに入力し、北海道博物館収蔵資料カード（以下、収蔵資料カード）を作成します。このデータベースと収蔵資料カードは、個々の資料の第一次情報となり、企画展示の計画作りや利用者からのレファレンス対応など、当館の博物館活動の原点となるものです。

作成された収蔵資料カードは収蔵番号順に資料情報室に収められ、資料のデータベースは北海道博物館情報システムとして資料管理や利活用を図るため、随時データの追加入力を行っています。

また、他機関や研究者の利用の便宜を図るとともに、利用者の知的興味に応じていくため、収蔵資料目録などを作成するとともに、資料情報の一部を当館のホームページで公開しています。

資料の活用

館の収蔵資料は総合展示や特別展などに展示されるほか、博物館関係者、一般利用者や研究者等の調査・研究を目的とした利用（特別観覧）にも供されます。また、博物館や学校等の機関への資料の貸し出しや、館資料の写真や複写等の印刷物やホームページ等への利用の受付け（模写品等使用）も行っています。

平成 28 年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用(北海道博物館)		模写品等使用(開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係*	18	281	14	524	16	52	1	1
報道機関	0	0	3	6	12	27	5	6
官公庁	2	7	3	3	5	10	2	3
出版社	0	0	2	32	33	81	3	6
その他	6	124	53	1,400	32	74	39	95
計	26	412	75	1,965	98	244	50	111

*教育委員会・学校含む

平成 29 年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用(北海道博物館)		模写品等使用(開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係*	19	446	31	582	24	52	8	9
報道機関	1	1	3	48	27	64	18	38
官公庁	3	3	1	12	10	18	0	0
出版社	0	0	0	0	40	71	3	5
その他	2	49	20	127	18	26	10	30
計	25	499	55	769	119	231	39	82

*教育委員会・学校含む

3 展示

当館の展示活動は、総合展示室、特別展示室、旧北海道庁舎（通称「赤れんが庁舎」（札幌市中央区））で行われています。各展示は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開しています。また、期間を限って、特別展や企画テーマ展、蔵出し展などの企画展示を年に数回開催しています。

展示場や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っています。

総合展示室

総合展示は、1階と2階を合わせて3,011㎡の広さがあります。北海道博物館の収蔵資料の中から実物資料を厳選し、さらに模型、ジオラマ、映像装置など、さまざまなメディアを使った展示を行っています。また、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、展示の定期的な入替を行っています。

平成28年度の総合展示の入替件数(クローズアップ展示コーナーを除く)(23点)

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名(※入れ替え後の資料)
プロローグ(2件)	ナウマンゾウ	7月29日	61783	ナウマンゾウ臼歯化石
			—	ナウマンゾウ恥骨化石
1テーマ(5点)	大地のなりたち	7月29日	125788	ステラーダイカイギュウ下顎骨
			125789	ステラーダイカイギュウ上腕骨
			151142	ステラーダイカイギュウ上腕骨(子ども)
	アイヌ民族と北海道開拓	12月15日	11479	樹皮衣
11462			アツシ織の順序	
2テーマ(8点)	着る	4月27日	180910	木綿衣
			180911	前掛け
		11月1日	96050	木綿衣
	いのる	12月15日	11243	幣冠
			128242	刀
			45668	刀帯
	いろいろな物語	12月15日	177823	和人昔話
			177251	二谷国松文書(五)
3テーマ(6件)	はばたく! 北海道ブランド	3月31日	145481	缶詰巻締機
			29419	タラバガニ缶詰
			30618	サケ缶詰
	大地に生きる	3月31日	15833	水稻直播器
			15403	人力稲刈器
			76027	ビートリフター
4テーマ(1件)	くらしの絶滅危惧種	12月16日	144088	レコード
学芸員紹介コーナー(1件)		1月17日	16156	湯たんぽ

平成29年度の総合展示の入替件数(クローズアップ展示コーナーを除く)(41点)

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名(※入れ替え後の資料)
プロローグ(2点)	ナウマンゾウ	4月6日	61788	ナウマンゾウ左肩甲骨
		12月14日	61800	ナウマンゾウ大腿骨
第1テーマ(23点)	大地のなりたち	4月6日	71493-2	ダイシヤカニシイガイ

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名(※入れ替え後の資料)
第1テーマ	大地のなりたち	4月6日	74667 71557 71588 71451 — 61751 79698 71320 71325 71342 71351 71360 71398 71326 71330 — —	ムカシオナガトリガイ エゾキンチャクガイ エゾイガイ エゾタマキガイ エゾタマキガイ エゾワスレガイ エゾシラオガイ エゾチドリガイ エゾチドリガイ エゾフネガイ エゾフネガイ チシマタマガイ オホーツクバイ ヒゲマキナワボラ ヒゲマキナワボラ コシバニシキガイ コシバニシキガイ
		12月14日	125788 125789 151142 125791 125796	ステラーダイカイギュウ下顎骨 ステラーダイカイギュウ上腕骨 ステラーダイカイギュウ上腕骨(幼体) ステラーダイカイギュウ肋骨 ヒゲクジラ肋骨
第2テーマ(7点)	着る	4月29日	22725	木綿衣
		12月15日	7161 11588	脚絆 木綿衣
	いのる	12月15日	133760 22419	耳飾り下げ布 儀礼用冠
			4月29日	181071 181072
第3テーマ(3点)	はばたく! 北海道ブランド	4月28日	113735 17199	ニシン粕俵 ニシン粕標本
	四季を感じる	12月15日	—	イラスト「ニシン漁」
	学芸員紹介コーナー(6点)	6月9日	137880-1 137884-1 137886-1 137906-1	たくちゃん貯金箱(投手) たくちゃん貯金箱(内野手) たくちゃん貯金箱(一塁手) たくちゃん貯金箱(捕手)
10月3日			184124 183745	砂金 コインアルバム

平成28年度の展示改訂(第4テーマ「札幌オリンピック」)



1972(昭和47)年開催の札幌オリンピックについて、大会誘致や開閉会式、競技内容などを資料・写真・映像で紹介するとともに、大会で使用した実物資料を展示するコーナーを設けました。

クローズアップ展示

普段の総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーで、総合展示室内に7か所設けています。

平成28年度のクローズアップ展示(32件)

第1テーマ(13件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示1	描かれたアイヌ民族のサケ漁ー小玉貞晨筆『蝦夷国魚場風俗図巻』の世界ー	4月23日(土)～6月3日(金)	東 俊 佑
	豪商村山家と松前・蝦夷地	6月4日(土)～7月29日(金)	東 俊 佑
	アイヌ民族の一年ー『蝦夷風俗十二月屏風』を読むーその1	7月30日(土)～9月30日(金)	東 俊 佑
	19世紀のアイヌの衣文化ー『蝦夷島奇観』と北海道神宮資料からー	10月1日(土)～12月14日(水)	出利葉浩司
	アイヌ民族の一年ー『蝦夷風俗十二月屏風』を読むーその2	12月17日(土)～2017年2月3日(金)	東 俊 佑
	梁川時代の松前藩ー『近藤家資料』からー	2017年2月4日(土)～4月7日(金)	東 俊 佑
クローズアップ展示2	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	4月5日(火)～6月3日(金)	三浦 泰之
	80年前の画家たちが見た北海道	6月4日(土)～7月29日(金)	春木 晶子
	新撰組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	7月30日(土)～9月30日(金)	三浦 泰之
	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ ①	10月1日(土)～11月3日(木)	春木 晶子
	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ ②	11月4日(金)～12月14日(水)	春木 晶子
	開拓を支えた交通・通信施設 駅通	12月17日(土)～2017年2月3日(金)	三浦 泰之
	江戸時代・明治時代の「熊送り図」	2017年2月4日(土)～4月7日(金)	春木 晶子

第2テーマ(6件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示3	伝承者が生きた近現代 鍋澤元蔵さん	4月19日(火)～7月15日(金)	大坂 拓
	昔の記録にみる子どもの遊び	7月16日(土)～12月14日(水)	大坂 拓
	祈りの造形ーイクバスー	12月17日(土)～2017年4月7日(金)	大坂 拓
クローズアップ展示4	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	2月2日(火)～7月15日(金)	小川 正人
	千島アイヌの近現代史	7月16日(土)～12月14日(水)	小川 正人
	北海道南部・渡島半島の近現代史	12月17日(土)～2017年4月7日(金)	小川 正人

第3テーマ(7件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示5	北海道の(やきもの) ① 小森忍の試み	3月15日(火)～4月21日(木)	池田 貴夫
	北海道の(やきもの) ② 古代文字と名付けられた模様	4月22日(金)～6月2日(木)	池田 貴夫
	北海道の(やきもの) ③ 北海道らしさの創造	6月3日(金)～7月29日(金)	池田 貴夫
	模型でめぐる北海道の建物 ① 道南地域の建物	7月30日(土)～9月16日(金)	村上 孝一
	模型でめぐる北海道の建物 ② 道央地域の建物	9月17日(土)～10月28日(金)	村上 孝一
	模型でめぐる北海道の建物 ③ 札幌農学校の建物	10月29日(土)～12月14日(水)	村上 孝一
	土産品店の店さき	12月17日(土)～2017年4月7日(金)	出利葉浩司

第4テーマ(3件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示6	北海道百年	3月29日(火)～7月29日(金)	山田 伸一
	たくぎん(北海道拓殖銀行)	7月30日(土)～12月14日(水)	会田 理人
	懐かしの家庭用品	12月17日(土)～2017年4月7日(金)	尾曲 香織

第5テーマ(3件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示7	海からの(おくりもの)	～4月24日(日) (※期間延長)	圓谷 昂史
	動物の頭骨と歯のかたち	4月26日(火)～7月29日(金)	表 溪 太
	歩く宝石“北海道のオサムシ”	7月30日(土)～12月14日(水)	堀 繁 久
	果実と種子の不思議	12月17日(土)～2017年4月7日(金)	水島 未記

平成28年度の展示のようす



土産品店の店さき(第3テーマ)

アイヌの人びとが、伝統的技術を活かして作ってきた土産品から、近現代のアイヌ文化のひとつを紹介しました。



果実と種子の不思議(第5テーマ)

いろいろな形の果実や種子の形を紹介しました。よく観察して、植物が子孫をのこすための工夫を学んでもらう展示です。

平成29年度のクローズアップ展示(27件)

第1テーマ(12件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示1	《松前屏風》を読む	4月8日(土)～6月2日(金)	東 俊 佑
	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む(右隻:1～6月)	6月3日(土)～8月4日(金)	東 俊 佑
	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む(左隻:7～12月)	8月5日(土)～10月6日(金)	東 俊 佑
	豪商村山家の古文書	10月7日(土)～12月13日(水)	東 俊 佑
	松前藩家臣近藤家の古文書	12月16日(土)～2018年2月2日(金)	東 俊 佑
	ヨイチ場所請負人林家の古文書	2018年2月3日(土)～4月6日(金)	東 俊 佑
クローズアップ展示2	新選組の元幹部隊士 永倉新八	4月8日(土)～6月2日(金)	三浦 泰之
	開道の旅 -《北海道巡教錦絵》-	6月3日(土)～8月4日(金)	春木 晶子
	北海道の双六あれこれ	8月5日(土)～10月6日(金)	三浦 泰之
	アイヌ民族を描く -早坂文嶺と《蝦夷島奇観》-	10月7日(土)～12月13日(水)	春木 晶子
	馬の肖像画家・畠中露山	12月16日(土)～2018年2月2日(金)	三浦 泰之
	生誕200年 旅の巨人・松浦武四郎	2018年2月3日(土)～4月6日(金)	三浦 泰之

第2テーマ(6件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示3	山田秀三とアイヌ語地名を歩く -登別-	4月8日(土)～8月4日(金)	小川 正人
	先祖供養を行うときの屋内	8月5日(土)～12月13日(水)	大谷 洋一
	祈りの造形 -死者を悼む-	12月16日(土)～2018年4月6日(金)	大坂 拓
クローズアップ展示4	文字に記されたアイヌ語 -18～19世紀頃の資料から-	4月8日(土)～8月4日(金)	田村 雅史
	首都圏、近畿地方の近現代史	8月5日(土)～12月13日(水)	小川 正人
	文字に記されたアイヌ語 -1890年ごろの北海道庁の試み-	12月16日(土)～2018年4月6日(金)	小川 正人

第3テーマ(3件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示5	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月8日(土)～8月4日(金)	舟山 直治
	いろいろな鋸	8月5日(土)～12月13日(水)	青柳かつら
	職人の道具と技術 一馬具・蹄鉄	12月16日(土)～2018年4月6日(金)	会田 理人

第4テーマ(3件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示6	札幌オリンピック	4月8日(土)～8月4日(金)	山田 伸一
	たぐぎん(北海道拓殖銀行)	8月5日(土)～12月13日(水)	会田 理人
	札幌の百貨店	12月16日(土)～2018年4月6日(金)	尾曲 香織

第5テーマ(3件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示7	北海道のカタツムリのいろいろ	4月8日(土)～8月4日(金)	堀 繁 久
	リンゴはなぜ赤い？ 果実と種子のヒミツにせまる	8月5日(土)～12月13日(水)	水島 未記
	どこのウマの骨でしょう？	12月16日(土)～2018年4月6日(金)	表 溪 太

平成29年度の展示のようす



新選組の元幹部隊士 永倉新八

(第1テーマ)

北海道にゆかりの深い人物でもある、新選組の幹部隊士でもあった永倉新八にゆかりのある資料を紹介しました。



山田秀三とアイヌ語地名を歩く 一登別ー

(第2テーマ)

アイヌ語地名研究の第一人者として知られる山田秀三が調査した際の資料を紹介するシリーズです。平成29(2017)年度は、登別を訪れた際の資料を紹介しました。

来館者参加型展示

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、さらに考えるきっかけにいただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けています。

アイヌ文化Q&A(第2テーマ)

展示をご覧になったあとに、「アイヌ文化の、ここをもっと知りたい」といったことがあれば、用紙に書いていただき、質問などにお答えするコーナーです。



総合展示2階出口付近の参加型展示

北海道をめぐる話題について、一緒に考え、より深く知るきっかけにいただけるように、ある話題についての来館者の声を掲示しているコーナーです。平成28(2016)年度までは「あなたはヒグマと共存できる?」、平成29(2017)年4月からは「北海道のココを旅したい!」というテーマで実施しています。



特別展示室

特別展

総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示の内容を補う特定の分野や主題で企画するもので、外部からの資料借用なども積極的に行い、これらを通して、さまざまな外部機関との連携も図る等、特別展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きなものと位置づけています。基本的に毎年1回開催しています。

平成28年度の特別展(1回)

名 称	ジオパークへ行こう！ ～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～		
会期(開催日数)	2016年7月9日(土)～9月25日(日) (休館日を除く68日間)		
観 覧 者 数	59,243人	展 示 構 成	栗原憲一(チーフ)、添田雄二、鈴木琢也、三浦泰之、会田理人、遠藤志保、表溪太、圓谷昂史
観 覧 料	一般600円(500円)、大学生・高校生300円(200円) ※()の中は10人以上の団体料金		
内 容	「なぜ、北海道からは恐竜やアンモナイトの化石が出てくるの?」、「どうやって火山は噴火するの?」これらの謎を解き明かしてくれる場所が「大地の公園・ジオパーク」です。この特別展では、道内5か所にあるジオパークとともに北海道の自然・歴史・文化の魅力にせまりながら、地球の不思議を探す旅に出る展示会として開催しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 「北海道恐竜研究最前線」(小林快次氏)、「大地とともに生きる～ワインにかける想い」(山崎大地氏)、「ジオパークで見る・食べる・学ぶ」(尾池和夫氏) ・講座 「アイヌ民族が伝えたふしぎな話」、「進化の歴史を解き明かそう」、「ジオパークにゆかりの古文書を読む(全2回)」 ・フォーラム「ジオパークへ行こう！」(道内各ジオパーク関係者) ・特別展ジオパークへ行こう! みどころ案内 ・子どもクラブ「アンモナイトを解剖しようA・B」、「アンモナイトのレプリカをつくろうA・B」、「マイナス20℃でシャーベット!?!」、「世界一おいしい火山の実験」(林信太郎氏)、「羊毛でアンモナイトがつくれちゃう!?!」 ・ワークショップ「石器をつくる」 ・特別イベント「北海道ジオパークまつり」 ・はっけんイベント「岩石マップをつくろう!」 		
主 催	北海道博物館		
共 催	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、アポイ岳ジオパーク推進協議会、白滝ジオパーク推進協議会、三笠ジオパーク推進協議会、とちか鹿追ジオパーク推進協議会、北海道立総合研究機構地質研究所、北海道新聞社、NHK札幌放送局、北広島市エコミュージアムセンター、一般財団法人北海道歴史文化財団		
特 別 協 賛	北海道地図株式会社、イオン北海道株式会社		



平成 29 年度の特別展(1 回)

名 称	プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語ー		
会期(開催日数)	2017年7月8日(土)～9月24日(日) (休館日を除く68日間)		
観 覧 者 数	19,565人	展 示 構 成	三浦泰之(チーフ)、会田理人、舟山直治、山田伸一、村上孝一、栗原憲一
観 覧 料	一般600円(500円)、大学生・高校生300円(200円) ※()の中は10人以上の団体料金		
内 容	いまから140年ほど前に北海道へ伝わってきた野球は、スポーツとして、遊びとして、北海道の社会や産業、くらしのうつりかわりと深く結びつきながら、たくさんの人びとに親しまれてきました。この特別展では、そのような北海道における野球の歩みを数々の実物資料や写真などから紹介しました。		
関 連 普 及 行 事	<ul style="list-style-type: none"> ・講 演 会 「一途一心の野球道(みち)」(山崎夏生氏)、「日本野球界の現状と課題」(柳俊之氏)、「ガンちゃん、北海道日本ハムファイターズを語る！」(岩本勉氏)、「北海道高等学校野球連盟70周年を迎えて」(田中俊一郎氏)、「ブラバン応援 もうひとつの夏の闘い」(梅津有希子氏) ・講 座 「明治・大正・昭和の日記に見る北海道と野球」、「樺太全島野球大会」、「全道樺太実業野球大会」 ・子どもクラブ「ちいさな野球盤づくり」、「フェルトで野球のバットとボールのストラップをつくろう」 ・特別イベント「小学生限定! スピードガンコンテスト」、「親子でグラブづくり」、「アオダモでコースターづくり」、「ファイターズマスコットがやってくる!(B&B)」、「ファイターズマスコットがやってくる!(ポリー)」、「博物館寄席『北海道 野球の歴史でございませう』」(講談: 荒到夢形氏、案内役: 下斗米哲明氏) ・ミュージアムトーク「全島樺太実業野球大会」、「ベースボールがやってきた」、「野球盤ものがたり」 		
主 催	北海道博物館		
共 催	NPO 法人北海道野球協議会、朝日新聞社、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK 札幌放送局、一般財団法人北海道歴史文化財団		
特 別 協 力	株式会社札幌ドーム、ミズノ株式会社、株式会社北海道日本ハムファイターズ		



企画テーマ展

当館収蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催します。総合展示とは別に、各研究グループ等での研究成果や北海道の自然・歴史・文化に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示や、当館のコレクション紹介、新着資料紹介等、数多くの館蔵資料を紹介する展示などを実施しています。観覧は無料です。

平成28年度の企画テーマ展（3回）

名 称	第4回企画テーマ展 神様おねがい！ー地域と人をむすぶ祈りのかたちー		
会期(開催日数)	2016年2月27日(土)～4月10日(日) (休館日を除く38日間)		
観 覧 者 数	1,370人※	展示構成	舟山直治(チーフ)、池田貴夫、村上孝一、三浦泰之
内 容	北海道におけるさまざまな信仰のかたちについて、近世の松前からつづく伊勢とのむすびつきやその移り変わり、日本海を介した信仰と旅のようす、神へ願いを伝える儀式や道具といった項目から明らかにしました。あわせて、くらしの場面で見られるいろいろな祈りのかたちの特徴を、神楽道具、奉納物、お札、お守り、棟札、日記、備忘録など館蔵資料をもとに紹介しました。 (※総観覧者数5,324人のうち、平成28年度4月の開催期間(9日間)の数字)		
関連普及行事	ー		



名 称	第5回企画テーマ展 アイヌ民族資料を守り伝える力		
会期(開催日数)	2016年4月28日(木)～6月5日(日) (休館日を除く34日間)		
観 覧 者 数	9,419人	展示構成	杉山智昭(チーフ)
内 容	アイヌの人々が自ら製作し、あるいは交易によって入手した生活に関わる道具の数々。日々の暮らしの想いが詰まった「もの言わぬ語り部」を守り伝える活動について、主に平取町立二風谷アイヌ文化博物館に伝えられたコレクションを展示するとともに、これらの「モノ」を守り伝えるために実施した最新の科学調査や保存活動について紹介しました。		
関連普及行事	企画テーマ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」みどころ解説		
共 催	平取町立二風谷アイヌ文化博物館		
協 力	九州国立博物館		



名 称	第6回企画テーマ展 きれい？不思議？楽しい！？漂着物 ー北の海辺でお宝みつけ！ー		
会期(開催日数)	2016年10月14日(金)～11月27日(日) (休館日を除く39日間)		
観 覧 者 数	6,139人	展示構成	圓谷昂史(チーフ)、堀繁久、水島未記、山田伸一
内 容	北海道の海辺では、南や北からいろいろなものが流れつきます。貝殻やガラス玉などのきれいなもの。巨大なクジラ。はるばるやってきた不思議なもの。ワクワク・ドキドキする自分だけのお宝を、展示をとおして探索してもらいました。		
関連普及行事	・講演会 「漂着するクジラを追って」(山田格氏) ・ちゃれんが講座 「文書のなかの『漂着』をたどる」		
協 力	いしかり砂丘の風資料館、ウキウキ研究会北海道支部、襟裳岬「風の館」、ストランディングネットワーク北海道、北洋銀行「はっくー基金」、北海道環境生活部循環型社会推進課、北海道教育大学札幌校地学研究室、北海道自然史研究会、北海道大学鯨類研究会、北海道立文書館		
後 援	漂着物学会		



名 称	第7回企画テーマ展 あったかい住まいー北海道・住まいの道のりー		
会期(開催日数)	2017年2月3日(金)～3月31日(金) (休館日を除く49日間)		
観覧者数	5,445人	展示構成	会田理人(チーフ)、小林孝二、池田貴夫、尾曲香織
内 容	本州などから北海道に持ち込まれた住まいは、雪は降っても比較的温かい本州以南の建て方をそのまま持ち込んだ、寒冷地に適さないものから始まりました。ところが現在、北海道の冬の室内は全国で一番温かいともいわれています。明治期以降、「あったかい」を目指した北海道の住まいと生活のあゆみをふりかえるとともに、住まいを彩ったものや道具などから北海道の住まいがめざしたものについて紹介しました。		
関連普及行事	—		
共 催	日本建築学会北海道支部北方系住宅専門委員会		



平成29年度の企画テーマ展(3回)

名 称	第8回企画テーマ展 夜の森 ようこそ!動物たちの世界へ		
会期(開催日数)	2017年4月28日(金)～6月4日(日) (休館日を除く33日間)		
観覧者数	10,484人	展示構成	表溪太(チーフ)、堀繁久、水島未記
内 容	日がしずむと森の動物たちは元気に動きはじめます。夜の森を再現した展示室で、闇に光る目、草をふむ音、空をわたる影など、いつもは見ることのできない動物たちのすがたを紹介しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムカレッジ「最新研究報告ー北海道と極東ロシアのシマフクロウー」 ・ミュージアムトーク「企画テーマ展『夜の森』道先案内」 ・はっけんイベント「空に飛ぶ動物をつくろう!」 ・スタンプラリー「動物のあしあとをあつめよう」 ・自然観察会「『あなたの街のコウモリの森』in 野幌森林公園」 		
関連展示会	「中島宏章写真展 あなたの街のコウモリの森」を同時開催		
共 催	一般財団法人北海道歴史文化財団		
協 力	中島宏章氏(動物写真家)、竹中健氏(シマフクロウ環境研究会)		



名 称	第9回企画テーマ展 弥永コレクション		
会期(開催日数)	2017年10月20日(金)～12月24日(日) (休館日を除く54日間) ※当初予定は11月26日(日)まで。展示期間を延長して開催。		
観覧者数	8,354人	展示構成	堀繁久(チーフ)、山際秀紀、右代啓視、圓谷昂史、大坂拓、鈴木琢也、添田雄二、田村雅史、春木晶子、舟山直治、水島未記
内 容	貨幣史や砂金を研究する弥永芳子さんが、3階建ての自宅を改築して1985(昭和60)年に私設博物館として開館した「弥永北海道博物館」。2015(平成27)年に閉館するまで、貨幣、鉱山関係、砂金・砂白金、琥珀、黄金美術品、アイヌ民族資料などの資料を中心に約12万点を収蔵し、そのうち約1万点を展示していました。その膨大なコレクションの一部が北海道博物館に寄贈されたのを機会に、弥永さんの歩みを振り返りながら、貨幣や砂金・砂白金などの寄贈資料を紹介しました。		
関連普及行事	—		



名 称	第10回企画テーマ展 カムイとアイヌのものがたり		
会期(開催日数)	2018年2月2日(金)～4月8日(日) (休館日を除く57日間)		
観 覧 者 数	7,247人※	展示構成	小川正人(チーフ)、大谷洋一、遠藤志保
内 容	カムイは、アイヌ(人間)を守ったり、助けたりしてくれる、大切な存在です。アイヌ民族が伝えてきた、いろいろな〈ものがたり〉には、カムイとアイヌのお話がたくさんあります。そうした〈ものがたり〉の世界を、アイヌ口承文学をもとにしたアニメーション等で紹介しました。 (※総観覧者数のうち、平成29年度内の観覧者実績は6,069人)		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 「アイヌの物語世界」(中川裕氏) ・アイヌ語講座「見てみよう! カムイとアイヌの物語」(全3回) ・クイズラリー「カムイとアイヌのものがたり」 		
協 力	一般財団法人アイヌ民族博物館、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、スタジオロッカ株式会社、安田千夏氏		



蔵出し展(平成28年度まで)

館蔵資料の分類展示、コレクション紹介を中心に開催するものです。展示構成や物語性を設定するのではなく、ふだん収蔵庫にある資料を披露することに重点をおく展示会です。平成29(2017)年度からは、「企画テーマ展」に統合しました。

平成28年度の蔵出し展(1回)

名 称	アイヌ民族の造形美 —北海道博物館所蔵の木盆—		
会期(開催日数)	12月22日(木)～2017年1月15日(日) (休館日を除く18日間)		
観 覧 者 数	1,632人	展示構成	大坂拓(チーフ)、出利薬浩司、甲地利恵、遠藤志保
場 所	当館特別展示室		
内 容	アイヌ民族の木彫、なかでも木盆は、その造形美等が高い評価を受け、今も各地の工芸家が、伝統を継承しつつ新たな変革をしています。明治期から現代に製作された多数の木盆を、当館では初めて一堂に公開しました。また、展示会に関連して、平取町在住の工芸家のみなさんと当館所蔵木盆を調査し、工芸家自らが博物館資料の熟覧を通して技法や作風を調べて、アイヌ民族の伝統文化に関する理解の促進を図りました。		
関連普及行事	—		
協 力	山崎幸治氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)		



その他の展示会

平成 28 年度の その他の展示会

平成 28 (2016) 年度は、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツ遺産を広く供するため、秩父宮記念スポーツ博物館と協働した展示会を開催しました。また、道内市町村等の協力のもと、「アイヌ文化巡回展」を開催しました。

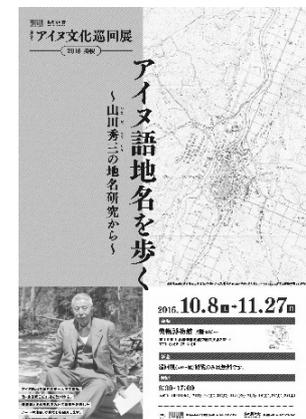
名 称	秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展 「2020 東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」		
会期(開催日数)	2017年2月3日(金)～3月17日(金) (休館日を除く37日間)		
観 覧 者 数	4,267 人	展 示 構 成	堀繁久(チーフ)、鈴木琢也
場 所	当館特別展示室(第7回企画テーマ展と同時開催)		
内 容	1964年の東京オリンピックを中心に、日本が初出場した1912年のストックホルムオリンピックから2020年に迎える東京オリンピック・パラリンピックに至るまでの歴史を紹介しました。また、地域ゆかりの展示として、札幌オリンピックコーナーを拡充するとともに、第8回アジア冬季競技大会の展示コーナーを設けました。		
関連普及行事	トークイベント「金メダリストが語る オリンピック・パラリンピック～過去そして未来～」		
共 催	独立行政法人日本スポーツ振興センター、公益財団法人日本オリンピック委員会、特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会、一般財団法人北海道歴史文化財団		



名 称	第1回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2016 枝幸		
会 期	2016年7月5日(火)～9月4日(日)		
観 覧 者 数	2,705 人		
場 所	オホーツクミュージアムえさし(枝幸郡枝幸町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、枝幸町とその周辺での地名調査を記録した地図やノート、写真などを紹介しました。		
関連普及行事	・講座「アイヌ文化にゆうもん講座」 ・講演会「枝幸町のアイヌ民族資料について」(講師:山崎幸治氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)ほか)		
共 催	オホーツクミュージアムえさし		



名 称	第2回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2016 美幌		
会 期	2016年10月8日(土)～11月27日(日)		
観 覧 者 数	1,014 人		
場 所	美幌博物館(網走郡美幌町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、美幌町とその周辺での地名調査を記録した地図やノート、写真などを紹介しました。		
関連普及行事	—		
共 催	美幌博物館		



平成 29 年度の その他の展示会

平成 29 (2017) 年度は、第 8 回企画テーマ展と同時開催で、写真家・中島宏章氏の写真展を開催したほか、平成 28 (2016) 年度に引き続き、道内市町村等の協力のもと、「地名」をテーマにした「アイヌ文化巡回展」を開催しました。

名 称	中島宏章写真展 あなたの街のコウモリの森		
会期(開催日数)	2017年4月28日(金)～6月4日(日) (休館日を除く33日間)		
観 覧 者 数	10,484人	展示構成	—
場 所	当館特別展示室(第8回企画テーマ展と同時開催)		
内 容	あなたはコウモリを見たことがあるでしょうか? 実は北海道はコウモリ天国なんです。山の奥にも街の中にもコウモリはすんでいます。動物写真家、中島宏章氏の躍動感あふれる写真でコウモリや身近な動物の魅力を紹介しました。		
関連普及行事	「あなたの街のコウモリの森」in 野幌森林公園		
協 力	中島宏章氏(動物写真家)		



名 称	第3回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2017 羅臼		
会期(開催日数)	2017年7月22日(土)～10月18日(水)		
観 覧 者 数	952人		
場 所	羅臼町郷土資料館(目梨郡羅臼町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、羅臼町とその周辺での地名調査を記録した地図やノート、写真などを紹介しました。		
関連普及行事	アイヌの楽器「ムックリ」「トンコリ」を弾いてみよう(羅臼町立春松小学校)		
共 催	羅臼町教育委員会、羅臼町郷土資料館		



赤れんがサテライト

北海道博物館赤れんがサテライトは、北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)にある北海道博物館のサテライトスペースです。北海道博物館の見どころを、選りすぐりの資料で紹介するほか、展示会(特別展、企画テーマ展)の案内や、道内のさまざまな博物館の活動を紹介しています。

観覧者数:650,408人(平成28年度累計)

689,580人(平成29年度累計)



北海道博物館赤れんがサテライト入口付近(平成28年7月撮影)



ポケット学芸員による多言語解説(平成28年7月撮影)

休憩ラウンジ

来館中の休憩や飲食などにご利用いただいている休憩ラウンジ（利用可能人数 約 100 名）において、道民参加型の展示や北方領土コーナーを設置しています。



道民参加型展示

平成 28、29 年度は北海道化石会の協力で「アンモナイト」の展示を実施しています。



北方領土コーナー

北方領土問題に関する広報コーナーとして、北海道総務部北方領土対策本部の協力によりパネル等を設置しています。

4 教育普及・来館者サービス

当館の来館者サービスは、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館を目指し、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができるよう利用者の視点に立って展開しています。来館者サービスは総合展示室、講堂、はっけん広場で実施しており、展示見学のオプションとして講堂で行う「グループレクチャー」やはっけん広場で行う「はっけんプログラム」など、小・中学生などの団体利用向けの事業（事前申込）も実施しています。

総合展示室

総合展示室内では来館者がわかりやすく、おもしろく観覧することができるよう、当館職員と交流ができる「学芸員ハローデスク」の設置や気軽に参加できるイベントなどを行っています。また、入口に館内行事や施設の案内用のデジタルサイネージを設置しているほか、展示場内でのWi-Fi網を整備し、多言語解説に対応したスマートフォン用展示解説アプリ「ポケット学芸員」の活用の利便性を高めました。

情報デスク

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口として、総合展示室内の1階と2階の交流ゾーンに設置しています。



ハイライトツアー

総合展示第1～5テーマの展示のみどころを1時間程度で説明する展示解説を行っています。（毎日14：00～15：00）



学芸員ハローデスク

1階と2階の交流ゾーンにある情報デスクでは、学芸員が研究活動などの通常業務を行いながら、北海道の歴史・文化・自然に関して、より専門的に知りたいという来館者の質問・疑問にお答えしています。（祝日のみ）



ミュージアムトーク

学芸員が総合展示のみどころや最新の研究などについて解説を行うイベントです。（一部の祝日のみ）



ちゃれんがラリー

子どもが総合展示の内容を楽しく学ぶことができるよう、展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリーを実施しています。(毎日実施)



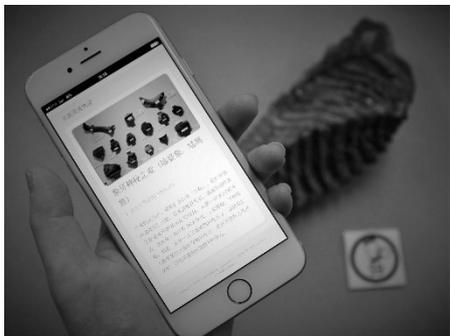
ハンズオン

普段は触ることのできない資料に特別に触ることができるコーナーを開設して、学芸員が道具の使い方などを実演するイベントを実施しています。(一部の祝日のみ)



ポケット学芸員

当館では、スマートフォン用の展示解説アプリ「ポケット学芸員」を導入しています。総合展示など約 350 項目の解説を、日本語、英語など 6 言語で見ることができます。アプリは無料でインストールできます。



音声ガイド(展示解説器)

総合展示の内容を各国語(日本語、英語、中国語、韓国語、ロシア語)で簡単に説明する機器を総合案内で貸し出しています(1回 280円)。



平成 28 年度 総合展示室におけるサービス・イベント参加者数(12,327 名)

	質問・レファレンス等			音声ガイド 貸出件数	行事・イベント					合計
	1 階	2 階	合計		ハンズオン	ミュージアム トーク	ハイライト ツアー	ちゃれんが ラリー	合計	
4 月	345	364	709	20	57	23	87	149	316	1,045
5 月	451	575	1,026	40	445	116	118	204	883	1,949
6 月	350	375	725	53	0	0	78	49	127	905
7 月	577	939	1,516	58	0	30	125	86	241	1,815
8 月	475	689	1,164	50	0	18	129	72	219	1,433
9 月	574	857	1,431	58	0	37	105	279	421	1,910
10 月	275	308	583	45	0	3	74	29	106	734
11 月	247	229	476	35	50	0	81	65	196	707
12 月	101	117	218	24	0	0	29	25	54	296
1 月	171	168	339	19	0	0	55	41	96	454
2 月	138	183	321	21	0	0	41	23	64	406
3 月	209	283	492	19	0	0	89	73	162	673
合計	3,913	5,087	9,000	442	552	227	1,011	1,095	2,885	12,327

平成28年度 ハンズオン内訳(5件、552名)

種類	開催日	行事名	担当	場所	参加者数
ハンズオン	4月29日	体感! 海・大地・山の香り	青柳かつら	総合展示室2F 交流ゾーン	57名
ハンズオン	5月3日	動物の毛皮にさわってみよう	東俊佑	総合展示室1F 交流ゾーン	254名
ハンズオン	5月4日	よ〜く見てみよう、ふしぎな道具(マレク)講座	出利葉浩司	総合展示室1F 第2テーマ	127名
ハンズオン	5月5日	体感! リンリン黒電話	会田理人	総合展示室1F 第4テーマ	64名
ハンズオン	11月3日	アイヌ民族の昔の家屋に展示されている道具たち	出利葉浩司	総合展示室1F 第2テーマ	50名

平成28年度 ミュージアムトーク内訳(9件、227名)

種類	開催日	行事名	担当	場所	参加者数
ミュージアムトーク	4月29日	企画テーマ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」みどころ解説	杉山智昭	特別展示室	23名
ミュージアムトーク	5月3日	ドラマ 三等客車	舟山直治	総合展示室2F 第3テーマ	31名
ミュージアムトーク	5月4日	北海道の先史文化ー旧石器から擦文まで	右代啓視	総合展示室1F 第1テーマ	32名
ミュージアムトーク	5月5日	がっつりトーク アイヌ民族の住居 てっぺい解説	出利葉浩司	総合展示室1F 第2テーマ	53名
ミュージアムトーク	7月18日	アイヌの祈り「カムイノミ」	大谷洋一	総合展示室1F 第2テーマ	30名
ミュージアムトーク	8月11日	じっくり解説 蝦夷地のころ	東俊佑	総合展示室1F 交流ゾーン	18名
ミュージアムトーク	9月19日	ふるさとはどこ? 北海道の動物たち	表溪太	総合展示室2F 第5テーマ	21名
ミュージアムトーク	9月22日	一品百考:今回は糞突き棒のおはなしです	池田貴夫	総合展示室2F 第3テーマ	16名
ミュージアムトーク	10月10日	「漂着物」展直前みどころ案内	圓谷昂史	総合展示室1F 交流ゾーン	3名

平成29年度 総合展示室におけるサービス・イベント参加者数(14,867名)

	質問・レファレンス等			音声ガイド 貸出件数	行事・イベント					合計
	1階	2階	合計		ハンズオン	ミュージアム トーク	ハイライト ツアー	ちゃれんが ラリー	合計	
4月	273	288	561	28	660	27	66	81	834	1,423
5月	381	519	900	23	2,182	129	101	124	2,536	3,459
6月	259	260	519	84	0	0	117	40	157	760
7月	449	499	948	43	1,929	16	102	152	2,199	3,190
8月	383	459	842	59	505	24	141	135	805	1,706
9月	309	440	749	58	583	30	79	31	723	1,530
10月	262	301	563	62	0	0	46	30	76	701
11月	171	195	366	52	0	0	88	37	125	543
12月	79	90	169	49	0	0	50	13	63	281
1月	124	122	246	34	0	0	66	38	104	384
2月	103	109	212	86	0	0	37	23	60	358
3月	181	205	386	43	0	0	32	71	103	532
合計	2,974	3,487	6,461	621	5,859	226	925	775	7,785	14,867

平成 29 年度 ハンズオン内訳(16 件、5,859 名)

種類	開催日	行事名	場所	参加者数
ハンズオン	4月29日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	395名
ハンズオン	4月29日	体感!リンリン黒電話	総合展示室 2F 第4テーマ	265名
ハンズオン	5月3日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	443名
ハンズオン	5月3日	体感!海・大地・山の香り	総合展示室 2F 交流ゾーン	181名
ハンズオン	5月4日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	640名
ハンズオン	5月4日	体感!海・大地・山の香り	総合展示室 2F 交流ゾーン	206名
ハンズオン	5月5日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	423名
ハンズオン	5月5日	体感!リンリン黒電話	総合展示室 2F 第4テーマ	289名
ハンズオン	7月17日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	1,290名
ハンズオン	7月17日	体感!リンリン黒電話	総合展示室 2F 第4テーマ	639名
ハンズオン	8月11日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	350名
ハンズオン	8月11日	体感!海・大地・山の香り	総合展示室 2F 交流ゾーン	155名
ハンズオン	9月18日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	194名
ハンズオン	9月18日	体感!リンリン黒電話	総合展示室 2F 第4テーマ	59名
ハンズオン	9月23日	毛皮にさわってみよう	総合展示室 1F 第1テーマ	219名
ハンズオン	9月23日	体感!海・大地・山の香り	総合展示室 2F 交流ゾーン	111名

平成 29 年度 ミュージアムトーク内訳(8 件、226 名)

種類	開催日	行事名	担当	場所	参加者数
ミュージアムトーク	4月29日	北海道のかたつむり	堀繁久	総合展示室 2F 第5テーマ	27名
ミュージアムトーク	5月3日	企画テーマ展「夜の森」道先案内	表溪太	特別展示室	37名
ミュージアムトーク	5月4日	企画テーマ展「夜の森」道先案内	表溪太	特別展示室	40名
ミュージアムトーク	5月5日	企画テーマ展「夜の森」道先案内	表溪太	特別展示室	52名
ミュージアムトーク	7月17日	全島樺太実業野球大会	会田理人	特別展示室	16名
ミュージアムトーク	8月11日	ベースボールがやってきた	山田伸一	特別展示室	24名
ミュージアムトーク	9月18日	野球盤ものがたり	舟山直治	特別展示室	19名
ミュージアムトーク	9月23日	暮らしのなかのストーブ	村上孝一	総合展示室 2F 第3テーマ	11名

グループレクチャー

総合展示の見どころや、北海道の自然・歴史・文化に関する話題について、当館の学芸員が映像などを使いながら、20～25分程度で解説を行っています（事前申込）。

できる限り多くの来館者の目的や要望に応じるため、グループレクチャーは社会科見学や現地学習、修学旅行などの利用に対応した「総合展示の見どころ紹介」（平成29（2017）年度からは「総合展示ダイジェスト」）と、特定のテーマにもとづく授業の一環としても利用できるような「北海道の自然・歴史・文化に関する各種のテーマ」を設定して、実施しています。

平成28年度グループレクチャー利用者数(173件、7,273名)

	件数	人数	メニュー別実施回数						
			総合展示の みどころ	第1テーマ	第2テーマ	第3テーマ	第4テーマ	第5テーマ	その他
4月	1	28	1	0	0	0	0	0	0
5月	24	1,210	19	0	2	2	0	0	1
6月	25	1,098	16	1	4	1	0	3	0
7月	18	726	12	1	0	1	0	0	4
8月	21	1,030	11	0	4	1	1	0	4
9月	38	2,264	19	2	8	3	0	1	5
10月	15	62	10	0	2	1	0	0	2
11月	12	283	7	0	0	1	0	0	4
12月	8	273	6	0	0	0	0	0	2
1月	3	118	2	0	0	0	0	0	1
2月	4	75	1	0	0	0	0	1	2
3月	4	106	0	0	2	1	0	0	1
合計	173	7,273	104	4	22	11	1	5	26

平成29年度グループレクチャー利用者数(137件、7,097名)

	件数	人数	メニュー別実施回数									
			①総合展 示ダイジ ェスト	②北海道 の生き物	③北海道 の化石	④アイヌ 文化の世 界	⑤北海道 の歴史	⑥北海道 のくらし	⑦北海道 の産業	⑧博物 館・学芸 員の仕事	⑨北海道 博物館の あらし	⑩その他
4月	3	46	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	16	866	8	0	0	1	1	0	1	2	0	3
6月	14	850	8	0	1	3	2	0	0	0	0	0
7月	13	556	8	0	0	1	1	1	0	2	0	0
8月	16	1,033	4	0	0	8	0	3	0	0	0	1
9月	35	2,064	19	0	0	9	0	2	1	0	0	4
10月	17	730	10	0	0	2	1	0	0	0	0	4
11月	12	489	5	2	0	1	0	1	0	0	0	3
12月	2	21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	2	231	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
2月	4	144	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3月	3	67	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
合計	137	7,097	72	2	2	27	5	7	2	4	0	16

はっけん広場

はっけん広場は、「目で感じよう、ココロでふれよう、手ではっけんしよう」をキャッチフレーズに、子どもから大人までホンモノに触れて何かを発見できる場となるよう設置しています。化石に触る、アイヌ民族の文化を体験するなどの「はっけんキット」を配置しているほか、期間とテーマを定めて年間数回、気軽に参加できる「はっけんイベント」を開催しています。

また、はっけん広場に常駐している解説員は、来館者の希望に応じて道具の使い方や技術のレクチャーを行っています。平成28(2016)年度の利用者数は27,689名、平成29(2017)年度は20,198名でした。

はっけんプログラム

当館のスタッフ(解説員)の進行のもと、参加者が実際のアンモナイトに触って観察したり、アイヌ民族の衣装を着る体験をとおしてそれらの特徴を学んだり、はっけんできるプログラムを実施しています(事前申込)。

平成28年度はっけんプログラム(128件、7,356名)

	件数	人数	プログラム別実施回数					
			クラス数	①ヒグマ	②アンモナイト	③アイヌ文化	④縄文文化のくらし	⑤昭和のくらし
4月	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	13	472	17	0	0	10	7	0
6月	16	806	28	1	1	13	9	4
7月	18	872	29	3	0	11	6	1
8月	9	712	22	3	0	12	3	4
9月	45	3,039	92	4	0	60	10	17
10月	15	932	28	1	0	10	2	15
11月	8	325	13	1	0	1	1	10
12月	1	69	2	0	0	2	0	0
1月	1	75	2	0	0	0	0	2
2月	2	54	3	0	0	0	0	3
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	128	7,356	236	13	1	119	38	56

平成29年度はっけんプログラム(111件、6,754名)

	件数	人数	プログラム別実施回数						
			クラス数	①ヒグマ	②アンモナイト	③アイヌ文化	④縄文文化のくらし	⑤昭和のくらし	その他
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	7	363	12	0	3	4	4	1	0
6月	8	371	12	0	0	9	2	1	0
7月	4	357	11	0	0	7	0	4	0
8月	13	927	27	0	0	21	0	5	1
9月	52	3,253	99	2	1	72	7	17	0
10月	18	1,044	33	0	0	14	4	15	0
11月	6	282	10	5	0	1	1	3	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	2	130	4	0	0	0	0	4	0
3月	1	27	1	0	1	0	0	0	0
計	111	6,754	209	7	5	128	18	50	1

はっけんイベント

一般来館者を対象として、土・日及び祝休日を中心に、簡単なものづくりの体験ができるイベントを実施しています。

平成 28 年度はっけんイベント参加者数(3,890 名)

行事名	開催日	開催日数	参加者数
羊毛でふわふわ織物にチャレンジ!	4月2日(土)～6月26日(日)の土曜日・日曜日・祝日	30日間	469名
岩石マップをつくろう!	7月2日(土)～9月25日(日)の土曜日・日曜日・祝日	30日間	2,505名
つくって鳴らそう、アイヌのシカ笛	10月1日(土)～11月27日(日)の土曜日・日曜日・祝日	21日間	261名
しめ縄づくり(事前申込)	12月1日(木)～12月28日(水)の開館日	22日間	279名
まっしろ羊毛で雪だるまをつくろう!	1月7日(土)～3月26日(日)の土曜日・日曜日・祝日	27日間	376名



しめ縄づくりとその様子



まっしろ羊毛で雪だるまをつくろう!

平成 29 年度はっけんイベント参加者数(2,381 名)

行事名	開催日	開催日数	参加者数
夜に飛ぶ動物を作ろう!	4月1日(土)～6月25日(日)の土曜日・日曜日・祝日	29日間	894名
アイヌ民族のゴザ編み機でコースターを作ろう!	7月1日(土)～9月30日(土)の土曜日・日曜日・祝日	30日間	447名
ふしぎな物体スライムをつくろう	10月1日(日)～11月26日(日)の土曜日・日曜日・祝日	20日間	609名
しめ縄づくり(事前申込)	12月1日(金)～12月24日(日)の開館日	19日間	281名
手織りの「ふかふかミニポーチ」をつくろう(事前申込)	1月6日(土)～1月28日(日)の土曜日・日曜日・祝日	9日間	73名
自然素材で染めた羊毛でつくってみよう(事前申込)	2月3日(土)～2月25日(日)の土曜日・日曜日・祝日・振替休日	9日間	35名
かわいい、かわいい小さなかごをつくってみよう!(事前申込)	3月3日(土)～3月31日(土)の土曜日・日曜日・祝日 (※イベントは4月1日(日)まで継続したが4月1日の参加者は0名)	10日間	42名



アイヌ民族のゴザ編み機でコースターを作ろう!



かわいい、かわいい小さなかごをつくってみよう!

はっけんキット

来館者が自由に手に取って遊んだり体験したりする中で、自然の不思議や昔の知恵など、これまで気がつかなかつたり、知らなかつたりする何かを〈はっけん〉してもらうことを目的に、体験型教材「はっけんキット」を開発・改良しています。平成28（2016）年度のはっけんキットの使用者数は16,896名、平成29（2017）年度の使用者は10,580名でした。



はっけんキットのいろいろ

はっけんキット一覧（平成29年4月1日現在）

【生き物に関するもの】

- ・毛皮にさわろう① ヒグマ
- ・毛皮にさわろう② エゾシカ
- ・毛皮にさわろう③ アザラン

【地学に関するもの】

- ・北海道の砂を観察しよう
- ・アンモナイト化石を観察する

【アイヌ文化に関するもの】

- ・ムックリを鳴らそう
- ・いろいろな繊維にさわってみよう
- ・着物を着てみよう(小さな着物)
- ・着物を着てみよう(大きな着物)
- ・刺繍を観察しよう
- ・アイヌ語かるたに挑戦！
- ・アイヌパズルに挑戦！
- ・背負い縄(タラ)で荷物を運ぶ
- ・背負い袋(サラニブ)を背負ってみよう
- ・サケ皮靴(模型)を組み立てよう
- ・木彫りを観察する

【歴史に関するもの】

- ・縄文人のおしゃれ
- ・土器文様のいろいろ
- ・鹿の角でつくった釣針

【生活文化に関するもの】

- ・昔の衣服を着る①-1「冬の女性の装いをしてみよう 角巻 雪げた」
- ・昔の衣服を着る①-2「冬の女性の装いをしてみよう お高祖ずきん 番傘」
- ・昔の衣服を着る②「お店屋さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る③「漁師さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る④「農家の人になってみよう」
- ・昔の道具ではかる①「杓でお米をはかってみよう」
- ・昔の道具ではかる②「さおばかりで おいもをはかろう」
- ・包んで しぼって①「わらで卵を包んでみよう」
- ・包んで しぼって②「経木でアサリを包んでみよう」
- ・包んで しぼって③「風呂敷を使ってみよう」
- ・赤ちゃんのお世話①「おんぶをしてみよう」
- ・赤ちゃんのお世話②「おむつをあててみよう」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう①「あやとり おはじき パッチ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう②「お手玉 こま わなげ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう③「竹わり けん玉 だるまおとし」
- ・パズルで脳をきたえよう！「万年ゲーム 清少納言知恵の板 ザイルトリック」
- ・みんなでカードゲームをしよう！「かるた 家族あわせ 鳥さし」
- ・みんなでボードゲームをしよう！「ダイヤモンドゲーム コピットゲーム 十六武蔵」
- ・すごろくで、もりあがろう！「蝦夷土産道中寿五六 札幌区実業家案内双六」
- ・いろんな〈せんい〉「この布は何からできているのかな？」
- ・ヒツジの毛にふれる「ふわふわの毛をとかしてみよう！」

イベント

自発的に学習したり、博物館の多様な活動に興味を持ってもらうきっかけとなったりするような入門的なイベントから、より専門的な講座まで、北海道の自然・歴史・文化に関わるイベントや講演会などをさまざまな形態で開催しています。

体験型プログラム

大人から子どもまでを対象とした、「ちゃれんがワークショップ」「自然観察会」などの体験型のプログラムを行っています。

平成 28 年度の体験型プログラム(11 件、329 名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
4月16日	ちゃれんがワークショップ 自然観察会① エゾアカガエルのラブコールを聴こう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	53名
5月21日	ちゃれんがワークショップ いろいろな鳥笛をつくろう	表溪太・水島未記	46名
6月11日	ちゃれんがワークショップ 自然観察会② デジカメで自然観察!	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	13名
6月12日ほか	ちゃれんがワークショップ 縄文土器をつくる(全2回) ※ ①6月12日、②6月26日に実施(各回参加者:①49名、②34名)	右代啓視・鈴木琢也	83名
7月10日	ちゃれんがワークショップ 石器をつくる	本吉春雄氏(湧別川流域史研究会)、右代啓視・鈴木琢也	40名
9月24日	ちゃれんがワークショップ 自然観察会③ 動物のフンをしらべよう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	10名
10月15日	ちゃれんがワークショップ アイヌ民族の植物利用ーイラクサの繊維をとってみよう	大坂拓・遠藤志保	12名
10月23日	ちゃれんがワークショップ ムックリを作って、鳴らしてみよう	甲地利恵	9名
10月29日	ちゃれんがワークショップ 自然観察会④ 落ち葉の下の生き物をさがそう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	24名
12月18日	ちゃれんがワークショップ 博物館で新年祈願? 日本の画材で絵馬づくり	春木晶子・三浦泰之	21名
2月18日	ちゃれんがワークショップ 自然観察会⑤ 動物の足あとを追いかけてよう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	18名

平成 29 年度の体験型プログラム(11 件、382 名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
4月22日	自然観察会 エゾアカガエルの合唱を聴こう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	45名
5月20日	自然観察会 「あなたの街のコウモリの森」in 野幌森林公園	中島宏章氏(フリーランス写真家)、堀繁久、水島未記、表溪太	34名
6月4日ほか	ちゃれんがワークショップ 縄文土器をつくる(全2回) ※ ①6月4日、②7月2日(6月25日予定より雨天順延)に実施(各回参加者:①45名、②34名)	右代啓視・鈴木琢也	79名
6月18日	自然観察会 「北海道フラワーズ」に参加しよう!	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	25名
7月9日	ちゃれんがワークショップ 石器をつくる	本吉春雄氏(湧別川流域史研究会)、右代啓視・鈴木琢也	47名
10月7日	自然観察会 木の実・草の実のヒミツをさがろう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	24名
10月22日	ちゃれんがワークショップ アイヌ民族の編みものをつくるーエムシアツの技術でプレスレットー	大坂拓	28名

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
11月26日	ちゃれんがワークショップ 稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦	池田貴夫・舟山直治	11名
12月17日	ちゃれんがワークショップ 博物館で新年祈願? 日本の画材で絵馬づくり	三浦泰之・水島未記	25名
1月28日	ちゃれんがワークショップ 太古の絶滅生物・アンモナイトの復元	栗原憲一・圓谷昂史	40名
2月24日	自然観察会 雪の森で足跡を探そう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	24名

ちゃれんが子どもクラブ

主に小学生とその家族を対象として、親子でものづくりや体験ができるプログラムを中心に実施しています。

平成28年度のちゃれんが子どもクラブ(14件、658名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
7月17日	アンモナイトを解剖しようA	栗原憲一・圓谷昂史	67名
7月24日	アンモナイトのレプリカをつくろうA	添田雄二・栗原憲一・圓谷昂史	80名
7月30日	マイナス20°Cでシャーベット!?	会田理人・表溪太	67名
8月6日	世界一おいしい火山の実験	林信太郎氏(秋田大学)	79名
8月7日	アンモナイトのレプリカをつくろうB	添田雄二・栗原憲一・圓谷昂史	80名
8月13日	自然観察会 草原の主・トノサマバッタをさがそう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知 子(自然ふれあい交流館)	38名
8月13日	アンモナイトを解剖しようB	栗原憲一・圓谷昂史	83名
8月14日	羊毛でアンモナイトがつかれちゃう!?	圓谷昂史・会田理人	74名
8月21日	のこぎりでコースターをつくろう	青柳かつら・山際秀紀・小林孝二	41名
8月27日	文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり	春木晶子・三浦泰之	17名
9月10日	じっくりムックリ講座	甲地利恵	4名
1月7日	冬休みスペシャル① 稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦!	池田貴夫・舟山直治	11名
1月14日	冬休みスペシャル② いのりのしるし? 絵馬づくりにチャレンジ	春木晶子・三浦泰之	12名
1月21日	冬休みスペシャル③ アイヌ語であそぼう!	田村雅史・大谷洋一	5名

平成29年度のちゃれんが子どもクラブ(11件、390名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
7月22日	ちいさな野球盤づくり	村上孝一・舟山直治	60名
8月5日	トノサマバッタを追いかけよう	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子 (自然ふれあい交流館)	48名
8月19日	フェルトで野球のバットとボールのストラップをつくろう	会田理人	45名
9月2日	トコロテンの不思議	会田理人・尾曲香織	23名
9月16日	アンモナイトを解剖しよう	圓谷昂史・水島未記	67名
10月7日	アンモナイトのレプリカをつくろう	栗原憲一	20名
11月11日	アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう	甲地利恵	17名
12月9日	文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり	三浦泰之・水島未記	19名
1月13日	いのりのしるし? 絵馬づくりにチャレンジ	三浦泰之・水島未記	10名
2月10日	雪のなかで宝さがし	舟山直治・池田貴夫	67名
3月4日	アイヌ語であそぼう!	田村雅史・大谷洋一	14名

講座・講演会

北海道博物館のスタッフや、国内外のさまざまな分野の研究者による研究発表、展示会や所蔵資料に関する講座・講演会・シンポジウムなどを実施しています。

平成28年度の講座・講演会(22件、1,633名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	参加者数
7月9日	ちゃれんが講座	特別展「ジオパークへ行こう！」みどころ案内	栗原憲一・添田雄二	62名
7月23日	ちゃれんが講座	アイヌ民族が伝えたふしぎな話	遠藤志保	35名
7月31日	講演会	北海道恐竜研究最前線	小林快次氏(北海道大学)	178名
8月20日	講演会	大地とともに生きる～ワインにかける想い	山崎太地氏(山崎ワイナリー)	36名
8月28日	ちゃれんが講座	進化の歴史を解き明かそう!	表溪太・栗原憲一	44名
9月4日ほか	ちゃれんが講座	古文書講座① ジオパークにゆかりの古文書を読む(全2回) ※①9月4日、9月18日に実施(各回参加者①58名、②44名)	三浦泰之	102名
9月11日	講演会	ジオパークで見る・学ぶ・食べる	尾池和夫氏(京都大学名誉教授、日本ジオパーク委員会委員長)	87名
9月25日	フォーラム	ジオパークへ行こう!	柚洞一央氏(徳山大学)、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会、白滝ジオパーク推進協議会、三笠ジオパーク推進協議会、とかち鹿追ジオパーク推進協議会	90名
10月2日	ちゃれんが講座	アイヌ語講座① アイヌの物語に親しもう	大谷洋一	16名
10月9日	ちゃれんが講座	アイヌ文化研究の最前線① ロミン・ヒチコックがみた北海道・アイヌ文化	出利葉浩司	26名
10月16日	ちゃれんが講座	アイヌ文化研究の最前線② アイヌの木綿衣の刺しゅう その歴史をたどる	津田命子氏(元北海道立アイヌ総合センター)	26名
10月30日	ちゃれんが講座	アイヌ文化研究の最前線③ アイヌ口承文芸の「語りかた」をさぐる	奥田統己(当館非常勤研究職員・札幌学院大学)	27名
11月3日	講演会	文化の日講演会 漂着するクジラを追って	山田格氏(国立科学博物館)	65名
11月6日	ちゃれんが講座	アイヌ語講座② アイヌの物語に親しもう	遠藤志保・大谷洋一	18名
11月13日	ちゃれんが講座	総合展示「アイヌ文化の世界」を語る① 日本の博物館所蔵の樺太(サハリン)アイヌの金属口琴と、その周辺	直川礼緒(日本口琴協会)	48名
11月20日	ちゃれんが講座	文書のなかの「漂着」をたどる	山田伸一	34名
11月27日	ちゃれんが講座	総合展示「アイヌ文化の世界」を語る② アイヌの儀礼用冠—地域差と変化を探る	大坂拓	24名
12月3日ほか	ちゃれんが講座	古文書講座② はじめての古文書・入門編(全2回) ※①12月3日、②12月17日に実施(各回参加者①59名、②62名)	東俊佑	121名
12月4日	フォーラム	野幌森林公園の今—10年間の動植物調査でわかったこと	宮本敏澄氏(北海道大学農学研究院)、春木雅寛氏(北海道大学総合博物館)、平川浩文氏(森林総合研究所北海道支所)、堀繁久	136名
12月11日	ちゃれんが講座	総合展示「アイヌ文化の世界」を語る③ 「幻の建設」に込めた意志—バチラー八重子らによる「アイヌウタリ—中等学校建設」の活動—	小川正人	33名
1月8日ほか	ちゃれんが講座	古文書講座③ はじめての古文書・続編(全3回) ※①1月8日、②1月22日、③2月5日に実施(各回参加者①71名、②64名、③70名)	東俊佑	205名
2月26日ほか	ちゃれんが講座	古文書講座④ 古文書に親しむ(全3回) ※①2月26日、②3月12日、③3月26日に実施(各回参加者①79名、②76名、③65名)	三浦泰之	220名

平成 29 年度の講座・講演会(28 件、1,834 名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	参加者数
4 月 30 日	ミュージアムカレッジ	最新研究報告ー北海道と極東ロシアのシマフクロウ	竹中健氏(シマフクロウ環境研究会)、表溪太	111 名
5 月 28 日	講演会	昆虫写真家 海野和男の生きもの写真のスズメ	海野和男氏(生きもの写真トリリーグ実行委員)	58 名
6 月 11 日	ミュージアムカレッジ	学校をつくるー近代北海道のアイヌ民族による小学校設置の取り組みー	小川正人	48 名
7 月 16 日	講演会	一途一心の野球道	山崎夏生氏(NPB 審判技術委員)	74 名
7 月 30 日	ミュージアムカレッジ	明治・大正・昭和の日記に見る北海道と野球	三浦泰之	36 名
8 月 6 日	講演会	日本野球界の現状と課題 ～野球王国北海道を目指して	柳俊之氏(NPO 法人北海道野球協議会)	43 名
8 月 26 日	講演会	ガンちゃん、北海道日本ハムファイターズを語る	岩本勉氏(野球解説者・スポーツコメンテーター・元北海道日本ハムファイターズ)	195 名
8 月 27 日	ミュージアムカレッジ	樺太全島野球大会	会田理人	22 名
9 月 10 日	講演会	北海道高等学校野球連盟 70 周年を迎えて	田中俊一郎氏(一般財団法人北海道高等学校野球連盟)	49 名
9 月 17 日	講演会	ブランパン応援 もうひとつの夏の闘い	梅津有希子氏(ライター)	62 名
9 月 24 日	ミュージアムカレッジ	全道樺太実業野球大会	会田理人	29 名
10 月 15 日	ミュージアムカレッジ	早坂文嶺作の絵馬「蝦夷地・場所図」を読み解く	五十嵐聡美氏(北海道立近代美術館)、山田伸一	35 名
11 月 3 日	文化の日講演会	自然とつきあう技術ー民俗学からみた自然と人間ー	篠原徹氏(滋賀県立琵琶湖博物館・国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学)	77 名
11 月 19 日	ミュージアムカレッジ	アイヌ民族の刀帯ーその変化を探る	大坂拓	26 名
12 月 3 日	ミュージアムカレッジ	江戸時代の日露紛争・フヴォストフ事件を読む	東俊佑	69 名
1 月 7 日ほか	古文書講座	はじめての古文書講座①入門編(全 3 回) ※①1 月 7 日、②1 月 21 日、③2 月 4 日に実施 (各回参加者① 80 名、② 71 名、③ 62 名)	東俊佑	213 名
1 月 14 日	ミュージアムカレッジ	1882 年 4 月、襟裳岬近くで難破した英国船	山田伸一	87 名
2 月 18 日ほか	古文書講座	はじめての古文書講座②続編(全 3 回) ※ ①2 月 18 日、②3 月 4 日、③3 月 18 日に実施 (各回参加者① 71 名、② 67 名、③ 65 名)	東俊佑	203 名
2 月 24 日	アイヌ語講座	見てみよう! カムイとアイヌの物語①	遠藤志保	40 名
2 月 25 日	ミュージアムカレッジ	野幌周辺の動植物を探るー化石から現在までー	水島未記・添田雄二・表溪太・圓谷昂史	103 名
3 月 10 日	アイヌ語講座	見てみよう! カムイとアイヌの物語②	安田千夏氏、矢崎春菜氏(アイヌ民族博物館)	57 名
3 月 17 日	講演会	アイヌの物語世界	中川裕氏(千葉大学)	86 名
3 月 24 日	アイヌ語講座	見てみよう! カムイとアイヌの物語③	大谷洋一	58 名
3 月 25 日	ミュージアムカレッジ	アイヌ音楽を知らない人のための アイヌ音楽入門講座	甲地利恵	53 名

特別イベント

特別展の期間中や文化の日などにあわせて、外部講師も招きながら、講座、体験イベント、演奏会などを開催しています。

平成 28 年度の特別イベント(6 件、3,419 名)

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
5 月 3 日 ～5 日	特別展「ジオパークへ行こう!」の展示をみんなで作ろう!	栗原憲一・添田雄二・表溪太・圓谷昂史	講堂	1,402 名
5 月 28・29 日	特別展「ジオパークへ行こう!」の展示をみんなで作ろう!	栗原憲一・添田雄二・鈴木琢也・三浦泰之・会田理人・遠藤志保・表溪太・圓谷昂史	グランドホール	134 名
6 月 4・5 日	う!	史		

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
7月16日	北海道ジオパークまつり	洞爺湖有珠山、様似町アポイ岳、白滝、三笠、とにかち鹿追、十勝岳山麓の各ジオパーク推進協議会	講堂、記念ホール	1,476名
11月3日	アイス音楽ライブ	MAREWREW(マレウレウ)	記念ホール	100名
12月23日	トナカイに会いに行こう！	—	総合展示室 1F・2F	172名
～25日				
2月3日	金メダリストが語るオリンピック・パラリンピック～過去そして未来へ～	逸見佳代氏(全日本スキー連盟フリースタイルスキーエアリアルコーチ)、阿部雅司氏(名寄市特別参与スポーツ振興アドバイザー)、河合淳一氏(日本パラスポーツ協会会長)	記念ホール	135名

平成29年度の特別イベント(17件、1,505名)

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
7月15日	北海道ジオパークまつり2017	道内ジオパーク関係者	講堂	478名
7月29日	ミズノ親子でクラブづくり	近藤和彦氏・白田淳一氏(ミズノ株式会社)	講堂	74名
※午前と午後に分けて2回実施(各回参加者:1回目 40名、2回目 34名)				
8月1日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	46名
8月2日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	32名
8月3日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	36名
8月4日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	34名
8月8日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	34名
8月9日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	54名
8月10日	スピードガンコンテスト		正面玄関側前庭	52名
8月13日	ファイターズマスコットがやってくる!(B☆B)		特別展示室	172名
※1日に2回実施(各回参加者:1回目 100名、2回目 72名)				
8月20日	アオダモでコースターづくり	大上容子氏(北海道水産林務部森林環境局森林活用課木育グループ)、塚野雅彦氏(北海道石狩振興局森林室)	講堂	63名
9月2日	ファイターズマスコットがやってくる!(ボリー)		特別展示室	73名
※1日に2回実施(各回参加者:1回目 37名、2回目 36名)				
9月3日	博物館寄席 北海道野球の歴史でございます	講談:荒到夢形氏(講釈師)、案内役:下斗米哲明氏(歴史研究家)	講堂	50名
11月3日	ミュージアムコンサート アイス音楽ライブ	MAREWREW(マレウレウ)	記念ホール	177名
12月23日	バックヤードツアー (1日2回開催)	杉山智昭・山際秀紀	收藏庫・ボイラー室・保存処理室ほか	20名
※1日に2回実施(各回参加者:1回目 10名、2回目 10名)				
1月8日	バックヤードツアー(1日2回開催)	杉山智昭・山際秀紀	收藏庫・ボイラー室・保存処理室ほか	20名
※1日に2回実施(各回参加者:1回目 10名、2回目 10名)				
3月17日	〈ものがたり〉を聞く(1日2回開催)	川上さやか氏(伝承者(担い手)育成事業研修生)	特別展示室	90名
※1日に2回実施(各回参加者:1回目 48名、2回目 42名)				

その他のイベント

屋上スカイビュー特別開放

春季～秋季の祝日に限って屋上を開放しております。札幌の市街地の眺めや野幌の森の広がりを楽しんでいただけます。

平成 28 年度の屋上スカイビュー特別開放(5 回、2,788 名)

8 月 11 日から 11 月 3 日までの祝日に実施しました。

開催日	参加者数
8 月 11 日 (山の日)	930 名
9 月 19 日 (敬老の日)	792 名
9 月 22 日 (秋分の日)	728 名
10 月 10 日 (体育の日)	254 名
11 月 3 日 (文化の日)	84 名

平成 29 年度の屋上スカイビュー特別開放(6 回、2,072 名)

4 月 29 日から 9 月 23 日までの祝日に実施しました。

開催日	参加者数
4 月 29 日 (昭和の日)	320 名
5 月 3 日 (憲法記念日)	413 名
5 月 4 日 (みどりの日)	483 名
5 月 5 日 (こどもの日)	532 名
7 月 17 日 (海の日)	(悪天候のため中止)
8 月 11 日 (山の日)	204 名
9 月 18 日 (敬老の日)	(悪天候のため中止)
9 月 23 日 (秋分の日)	120 名
(悪天候のため 14 時 40 分で終了)	

館外のイベント

巡回展等にあわせて、館外でも講座、イベント等を開催しています。

平成 28 年度の館外のイベント(2 件、28 名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	場所	参加者数
8 月 6 日	アイヌ文化 にゆうもん講座	アイヌ語であそぼう！ 昔の衣服にさわってみよう	田村雅史・出利葉浩司	オホーツクミュージアム ムえさし(枝幸町)	10 名
8 月 11 日	第 1 回アイヌ文化巡回展関連講演会	アイヌ文化講演会 ・メイベル・トッドのみた枝幸のアイヌ文化 ・枝幸町のアイヌ民族資料について	山崎幸治氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、佐々木利和(当館非常勤研究員)・大坂拓	オホーツクミュージアム ムえさし ミュージアム シアター(枝幸町)	18 名

平成 29 年度の館外のイベント(1 件、18 名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	場所	参加者数
10 月 24 日	巡回展「アイヌ語地名を歩く」関連講座	アイヌの楽器「ムックリ」「トンコリ」をひいてみよう	甲地利恵	羅臼町立春松小学校 (羅臼町)	18 名

5 学習・活動支援

道民の「知りたい」気持ちに応えるとともに、博物館や北海道の自然・歴史・文化の理解促進のための人材育成事業の一環として、利用者をはじめ、地域の博物館や学校教育などさまざまな活動に対する支援を行っています。

学校教育との連携

北海道博物館では、学校教育との連携事業を重要な事業と位置づけています。そのため博物館を生涯学習や学校教育においてより効果的に活用していただくため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、事業を進めています。

教職員を対象とした研修

平成28(2016)・29(2017)年度には、博物館を活用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員等を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の展示や教育プログラムについて解説する、「博物館教育プログラム研修会」を開催しました。

平成28年度博物館教育プログラム研修会(4回、36名)

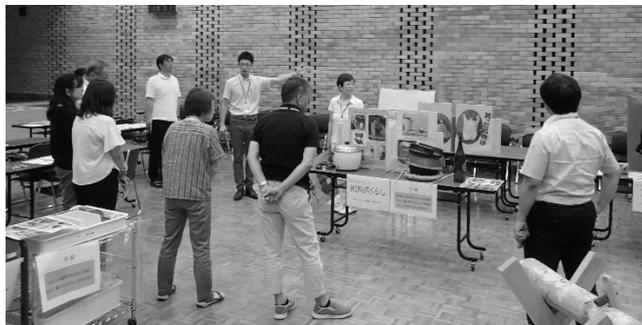
開催日	2017年1月12日(木)～13日(金)(計4回)
参加者	1月12日 8名(午前)、11名(午後) 1月13日 9名(午前)、8名(午後)
研修内容	研修1 施設ガイダンス 研修2 教育プログラムと授業活用事例 研修3 体験型メニュー(はっけんプログラム)実演 研修4 展示室での学習活動、見学のしおり(ワークシート)作成のポイント

平成29年度博物館教育プログラム研修会(2回、38名)

開催日	2017年7月26日(水)、28日(金)
参加者	7月26日 9名 7月28日 29名
研修内容	研修1 北海道博物館・北海道開拓の村の利用方法 研修2 北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用 研修3 アイヌ文化の学習における博物館利用 研修4 はっけんプログラムの実演



博物館教育プログラム研修会の様子(平成28年度)



博物館教育プログラム研修会の様子(平成29年度)

『北海道博物館 学校利用ガイド』

小・中学校や高校などの学校団体が、現地学習や社会見学、修学旅行などで、北海道博物館を利用する際に必要な情報をまとめたガイドです。北海道博物館の概要のほか、博物館利用の手続きや博物館でできる教育プログラムなどについて記載しています。道内の学校に送付しているほか、当館のホームページ上からもご覧いただけます。



はっけんキットの貸出

北海道博物館では、北海道の自然・歴史・文化についての理解を深めてもらうため、北海道内の小学校、中学校、高等学校、幼稚園・保育園等の学校団体を対象として、学校の授業などで活用できる補助教材の貸出を行っています。平成28（2016）年度は4件、平成29（2017）年度は2件の貸出を実施しました。

博物館実習・インターンシップの受入

博物館実習

博物館実習（館務実習）は、年に1回、8月に20名を上限として実施しています。10日間の日程で、博物館の活動および学芸員の業務のうち、できるだけ多くの面を経験できるようプログラムを組んでいます。平成28（2016）年度は、8月16日（火）から8月26日（金）の休館日を除く10日間、平成29（2017）年度は8月22日（火）から9月1日（金）の休館日を除く10日間で実施しました。また、見学実習は随時受け入れています。

平成28年度の博物館実習生の受入(16名)

大学名	学部・学科名	学年	人数	専攻	備考
聖心女子大学	文学部歴史社会学科	4年	1名	日本近・現代史	
八洲学園大学	生涯学習学部	—	1名		科目等履修生
東海大学	文学部	4年	1名	考古学	
札幌大学	地域共創学群	4年	1名	法学	
		3年	3名	アイヌ文化、平安文学	
東北芸術工科大学	芸術学部	4年	1名	保存科学	
東京海洋大学	海洋科学部	4年	1名	海洋環境	
山形県立米沢女子短期大学	日本史学科	2年	1名		
札幌学院大学	人文学部	4年	1名	考古学	
		3年	1名	近代史	
札幌市立大学	デザイン学部	4年	1名	コンテンツデザイン	
北海道大学大学院	文学研究科	修士2年	1名	インド哲学	
		修士1年	1名	日本近代史	
北海道大学	文学部	4年	1名	現代文学	

平成 28 年度の博物館実習の様子



歴史研究グループによる実習



展示製作実習

平成 29 年度の博物館実習生の受入(16 名)

大学名	学部・学科名	学年	人数	専攻	備考
東洋英和女学院大学	社会学部	3年	1名	国際コミュニケーション	
北海道大学	文学部	4年	1名	人文科学	
	理学部	4年	1名	古生物学	
北海道大学大学院		修士2年	1名	博物館学	
北海道大学大学院		修士2年	1名	植物生態学	
日本大学	文理学部	4年	1名	史学	
立命館大学	文学部	4年	1名	考古学	
八洲学園大学		—	2名		科目等履修生
東京学芸大学	教育学部	4年	1名	教育学	
札幌学院大学	人文学部	3年	2名	史学、民俗学	
東海大学	生物学部	4年	2名	生物学	
大谷大学	文学部	4年	1名	史学	
札幌大学	地域共創学群	4年	1名	日本文化	

平成 29 年度の博物館実習の様子



自然研究グループによる実習(自然観察会)



オーディエンス・リサーチ(来館者へのインタビュー)

平成 28 年度の見学実習の受入(5 件、111 名)

実施日	大学名等	学部・講座名	人数	内容
5月20日	北海道大学	文学研究科芸術学講座	25名	バックヤード見学、総合展示室観覧
6月19日	学習院大学大学院	人文科学研究科	21名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
10月21日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	12名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
11月24日	北海道教育大学	教育学部	33名	教育実践演習、企画テーマ展観覧
11月30日	北海学園大学	工学部建築学科	20名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

平成 29 年度の見学実習の受入(4 件、43 名)

実施日	大学名等	学部・講座名	人数	内容
5月10日	興部町立沙留中学校		1名	概要説明、総合展示室観覧、質疑応答
5月25日	北海道大学	文学研究科芸術学講座	25名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
7月29日	北翔大学	教育文化学部	8名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
11月10日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	9名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

インターンシップ

中学・高校、大学のカリキュラムの一環として行われるインターンシップや職場体験等についても、積極的に受け入れています。

平成 28 年度のインターンシップの受入(3 件、19 名)

期間	学校名	学年	人数	備考
8月22日～26日	北海道大学	1年	1名	環境生活部文化・スポーツ課インターンシップによる受入
	北翔大学	3年	1名	
8月22日～30日	北海学園大学	3年	1名	
9月14日	市立札幌平岸高等学校	2年	5名	札幌市立高等学校「職場体験学習」による受入
9月21日	市立札幌清田高等学校	1年	2名	
	市立札幌旭丘高等学校	1年	3名	
12月8日	大阪市立鶴見商業高等学校	2年	6名	

平成 29 年度のインターンシップの受入(4 件、24 名)

期間	学校名	学年	人数	備考
8月22日～23日	新潟大学、北海道大学、北海学園大学、都留文科大学		4名	環境生活部文化・スポーツ局文化振興課インターンシップによる受入
9月12日	北海道大学大学院	3年	1名	環境生活部くらし安全局道民生活課インターンシップによる受入
9月13日	市立札幌平岸高等学校	2年	8名	札幌市立高等学校「職場体験学習」による受入
9月20日	市立札幌旭丘高等学校	1年	4名	
	市立札幌新川高等学校	2年	2名	
10月26日	北海道札幌手稲高等学校	1年	5名	

レファレンス対応

北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談の窓口として、質問や疑問、専門的な内容に関する相談に図書室や電話などで対応しています。こうしたレファレンス対応は、利用者との対話による情報交換の場となっています。専門的な内容を含む質問等はそれぞれの専門の学芸職員が対応していますが、内容によってはより正確な情報をお伝えするため、資料等を調べた後に回答しています。

平成 28 年度のレファレンス等対応件数

写真提供件数	98件
レファレンス件数	203件 (来館62件、非来館141件)
アンケート、その他の利用件数	13件

平成 29 年度のレファレンス等対応件数

写真提供件数	112件
レファレンス件数	392件 (来館168件、非来館224件)
アンケート、その他の利用件数	30件

図書室

図書室には閲覧スペース、図書カウンターを設置しています。閲覧スペースには、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌などを配架するとともに、当館で公開しているアイヌ文化関連の映像や音声などが視聴できるスペースや、企画展開催に合わせて、展示に関連する図書を配架するコーナーを設けています。

また、北海道の自然・歴史・文化に関する質問や図書に関する問い合わせ、博物館の資料への質問などにも対応しています。利用は無料です。

平成 28 年度の図書室利用者

図書室利用者	4,485名
うち図書室のみの利用者	23名

平成 29 年度の図書室利用者

図書室利用者	2,784名
うち図書室のみの利用者	27名



閲覧スペース



図書カウンター

図書室の蔵書

当館の刊行物のほか、職員が研究に用いる図書資料（専門書・一般書）を所蔵しています。道内外の博物館、大学などの機関や、個人からの寄贈等による刊行物も収集しており、書店では流通しない貴重な図書資料も多くあります。これらの図書資料は、主に2つの書庫で管理され、その一部を図書室内の閲覧スペースに配架し、一般の来館者に利用していただいています。

区 分		数 量 (冊)
平成 28 年度受入	単行本図書	599
	雑誌	574
	博物館関係出版物	1,480
	小計	2,653
総計		154,695

区 分		数 量 (冊)
平成 29 年度受入	単行本図書	647
	雑誌	319
	博物館関係出版物	1,220
	小計	2,186
平成 29 年度除籍		4,203
総計		152,678

アイヌ関係資料の閲覧・視聴

閲覧スペースでは、アイヌ民族文化研究センターが公開している資料を閲覧することができます。閲覧・視聴できる資料は、旧北海道立アイヌ民族文化研究センターならびに、その機能を引き継いだ当館のアイヌ民族文化研究センターが、採録や寄贈により収集した資料（「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」「職員採録資料」）のうち、公開の手続きを終えた音声・映像・文書・写真資料です。



アイヌ民族文化研究センター資料公開スペース